

## 木づかいガイドライン作成関連資料

### 1 平成 26 年度 木づかいガイドラインの活動総括について

- ① 行政・森林組合等森林・木材関係者を中心とした木づかい推進の検討は、市民目線から離れてしまい、一部の専門家集団による議論に特化されてしまう懸念が生じた
- ② また、こうした関係者のみによる課題検討の傾向を打破する意味においても、流域圏懇談会への市民参加があるのではないかと、との強い意見もあった
- ③ こうした展開から、平成 26 年度は前年度から継続していた市民目線から木づかい推進を行う「矢作川デイズ 木づかいガイドライン ライフステージアタック表」と「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす 森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイルへの誘い 矢作川デイズ」の思想を活かして、より具体的に活動を始められるような「木づかいガイドライン」の作成を検討した
- ④ その結果、市民、行政、業界、行政が今すぐに具体的に「木づかい」の行動を起こせる「さあ～しよう」という提案型の「木づかいガイドライン」のスタイルが望ましいということになり、数回の検討を経て提案者、提案する内容、提案の想定対象者を想定した原案を作成した
- ⑤ 山部会で作成したその原案を基本にして、すでに提案が可能と考えられるものから提案者に対して原稿依頼を図ることとした
- ⑥ 同時に、矢作川流域圏懇談会山部会として、自ら様々な里山グループ・工務店・地域の団体等と連携して、矢作川の流域材を活用した「木づかい」推進を図るため、根羽村森林組合をリーダー役とする「スギダラ矢作川流域支部」を発足させ、流域内のイベント等とジョイントさせた「木づかいライブ・スギダラキャラバン」をスタートさせることとした
- ⑦ 部会では、こうした「木づかいライブ・スギダラキャラバン」を行うことにより、広く市民に対して矢作川流域材の活用による「木づかい」推進を図ると共に、流域の方々が連携して地域の生活空間を自らのアイデアと行動でスギダラケにしていこう、という考えを共通認識として確認し、本年度の活動は終了している

## 2 平成 27 年度 木づかいガイドラインの活動方針について

- ① 平成 26 年度に作成した提案型「木づかいガイドライン さあ～しよう」の原案を基本に、各提案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う
- ② 「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく
- ③ 並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合がまとめ役となっており、里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、流域内の様々なイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する
- ④ 「木づかいライブ・スギダラキャラバン」開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく
- ⑤ 同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る
- ⑥ こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動で身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす 森や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きるライフスタイル 矢作川デイズ」を確立する

## 根羽村からはじめる矢作川流域市町村ウッドスタート宣言

長野県根羽村長 大久保憲一

今年の紅葉は、紅い葉っぱの色が特に映えて、見る期間もとても長く感じられました。矢作川の源流にある根羽村は、スギ・ヒノキの人工林が 73% を占めていますが、毎年秋の紅葉時期には、緑の中に四季を強く感じられる素敵な場所です。



根羽村は、長野県の最南端に位置し、愛知県豊田市、設楽町、岐阜県恵那市に隣接し、愛知県で一番高い山である標高 1,415m の茶臼山を県境に持つ地域であります。この茶臼山を源流として、三河湾へ注ぐ延長 118km の一級河川「矢作川」は、古くから流域間の交流を支えてきました。流域には、明治 13 年（1880 年）に明治用水土地改良区が矢作川から用水を開削し、日本デンマークと呼ばれるまでに発展した安城市があります。安

城市にある明治用水土地改良区では、「水を使う者は、自ら水をつくれ」との崇高な理念のもと、大正 3 年（1914 年）に水源地の根羽村に水源涵養林 427ha を買い求め、植林活動を通じて水源涵養林の整備育成に積極的に取り組んできました。その活動は、今も森林整備に加えて、様々な環境教育の実践や、地域間交流にも積極的に取り組んで頂いております。

また、当村では明治時代から村有林を村内全戸に貸付林として 2.5ha、分収林として 3.0ha の合計 5.5ha を貸し与え、村民こぞって植林を行い、森林整備に力を入れてきました。大正 9 年（1920 年）には、村有林 1,297ha を国と分収林契約（官行造林）を行い、昭和 30 年代から、当時の村の収入の約 4 割に相当していたこれらの森林からの立木の販売収益によって、役場庁舎や学校、上下水道等の様々な公共施設整備を進めることができました。古くから山づくりを進めて当村では、「親が植え、子が育て、孫が伐る」という、親子三代にわたる持続的な林業経営哲学がしっかりと根付いてきました。村民全員が山からの恩恵にあずかり、山を大切にしてきたものであります。昭和 50 年代に入ってから、これら官行造林地の伐採予定地も水源地近くとなってきて、村ではこの森林を伐採せずに、立木を国から買い取って保存するという方針転換を行いました。このことは、本来伐採時には収益を国と村が折半する制度であるので、村が買い取ることは村の収益がないことにあわせ、村にとっては 2 倍の負担となります。村では数年間立木の購入を続けてきましたが、昭和 8 年に植栽され、平成 3 年に伐採予定となっていた 48ha の森林については、矢作川流域にとって貴重な水資源の役割を果たしており、水源地の保護育成のためには、何としても立木を買い取る以外に方法がなかったわけでありす。





しかし、購入については助成制度が全くなく、村単独の財源での購入は困難な状況にありました。この時、安城市の協力と理解を頂き、本来村が負担すべき資金を安城市が負担して頂けることとなり、矢作川上流の水源確保と森林育成を目的とした「矢作川水源の森」が誕生しました。これは、平成3年に森林法が改正され、上流と下流の自治体間での「森林整備協定」ができることが定められての、全国第一号の取り組みとして注目を集めたところでもあります。



山村では、山を育て、土地を耕し、そこから様々な自然の恵みを頂きながら生活がなされてきました。いつしかそうした自然のサイクルが破壊され、急激な過疎化の波が押し寄せてきました。根羽村では、森林から多くの恩恵を受けてきたこともあり、こうした厳しい状況の中でも、山づくりに一生懸命取り組んできました。長引く木材価格の低迷や産業構造の激変から、村でも林業で生きていくのは厳しい状況となってきました。そんな中、村内に7軒あった製材工場も次々と姿を消し、平成7年には唯一残っていた一軒の製材工場も閉鎖することとなりました。今まで営々と山づくりを行ってきた根羽村から製材工場が消えることは、「林業立村」を目指す当村にとって大きな痛手となってしまい、何とかしたいという思いで村がこの製材工場を購入したところから、根羽村の新たな林業への挑戦が始まったわけでもあります。

時を同じくして、国産材の時代が到来したとか、地域材を使おうといった全国的な機運も高まりつつある時期でありました。丸太を加工して付加価値を付ければ何とかなるだろうという安易な考えは、スタート当初から厳しい現実と直面することとなりました。一方、木材を使う消費者側である設計事務所や工務店の皆さんは、地域材を使おうとしてもどこにあるのか、その品質や価格は保証されているのか、注文にきちんと対応できるのかなど、多くの疑問を抱えていました。私たちは、山元である生産者側と、家を建てようとする消費者側のお互いの情報が全くなかったことに気づいたわけでもあります。そこで、それぞれ関係する者が集まって協議を進めていく中で、木を育てて丸太を生産する「第一次産業」、丸太を住宅用材として加工する「第二次産業」、住宅を建てようとするお施主様の現場まで製品をお届けする「第三次産業」を、地域内で完結させた「トータル林業」の仕組みを構築することができました。このことによ

って、家を建てようとするお施主様の情報を、設計事務所や工務店を通して、山元である森林組合と共有することが可能となり、消費者には安全で安心な材料が確実に手に入り、山では間伐によって適正な森林が管理でき、加工販売することによって森林組合で雇用が確保することが可能となり、村内で林業が再度「業」として復活できる確かな手ごたえを感じることができるようになりました。

今、全国の源流地域と言われる山村では、流域から人が消え、集落の空洞化が大きな問題とな



今、全国の源流地域と言われる山村では、流域から人が消え、集落の空洞化が大きな問題とな



っています。このことによって、山に手が入らなくなり、山が崩れ、水の貯水機能を担ってきた山間地の農地が荒れ、水源地域が守れなくなってきました。人の営みの原点である源流地域から伝統や文化が消滅し、川の流れが途切れ、営々と築かれてきた上流と下流のつながりが、今まさに消えようとしています。



日本の原風景である「ふるさと」が消えることは、まさしく国土の崩壊に直結することになり、こうしたことから、どの地域にも人が住み続けなければならないと考えているところでありませぬ。根羽村では、地域に人が住み続けるためには、働く場所や収入を得られる仕組みづくりなどの「地域内での雇用の循環」、地域内の商店やガソリンスタンドや理容店などが生き残るための「地域内での経済循環」、教育や福祉、医療など必要最低限の「地域内でのサービスの循環」の仕組み

作りと、これを地域内で動かすための住民の意識の醸成に力を入れています。この地域内の循環と、流域連携によっての地域づくりが、生き残りをかけた根羽村の挑戦であります。そして何より大切なことは、私たちが自分たちの住む地域に誇りと自信を持って自ら実践し、そのことを「次世代を担う子供たち」にしっかりと伝えていくことであると思います。

高齢化率が47%を超える根羽村では、平成27年3月開所を目的に、デイサービスや特別養護老人ホームを併設した高齢者福祉施設の整備を進めています。この施設は、根羽スギ・根羽ヒノキを100%、約500㎡の建築材料を使用した木造建築となっています。スギの産地であることから、構造材、天上、壁、家具等にはふんだんにスギが使用され、床は車椅子にも対応できるヒノキの圧密フローリングを使用しています。また、床暖房や給湯には薪ボイラーを導入し、ここで使用する薪は、間伐材や山での端材を「木の駅プロジェクト」のメンバーが集め、乾燥して準備されます。出荷時にはそれぞれに地域通貨が支払われ、村内の各商店等で利用されて行きます。さらに、乾燥した薪をボイラーへ投入して管理する部分についても、新たにNPO「森の民ねばりん」が設立されました。地域にある資源に付加価値を新たにつけて村内に経済循環をおこし、働く機会も創出できるといった取り組みに大きな期待を寄せているところであります。

また、根羽村は流域にある企業や自治体、市民団体等多くの皆さんとの交流を進める中で、スギの木工ペンダントづくり、表札づくり、水鉄砲づくり、弓矢づくり、木ハガキの利用、割りばしづくり、チェーンソーアートの展示、どこでも足湯の作製、薪割り、薪のドラム缶風呂、小中学生を対象とした木育活動の実践など、普段身近に使うものから木の魅力を伝えて、木と共に過ごす自由時間の素晴らしさや、豊かな「木



のある暮らし」の楽しみを伝えるために、様々な取り組みを実践し大きな人気を得ています。



矢作川「水源の村 根羽村」は、今後これまで述べてきたような森林資源を活用した様々な歴史や、取り組みの実績を踏まえ、矢作川の流域住民のライフステージを対象とした「木づかい推進活動」を川の流に沿って「じわじわ」と、そして「急激」に進めていきます。そして今ここに、こうした取り組みを流域の皆様に対して明確にするため、流域の樹種であるスギ・ヒノキ・広葉樹等をふんだんに使った生活空間の実現と、「木のある

暮らし」の楽しみを広く伝えていくことを目的とした「ウッドスタート」宣言をいたします。

最後になりますが、根羽村では下流域への水資源の安定供給を含め、自らの豊富な森林資源の恩恵を皆様の元にお届けし、地域資源の活用による持続可能な村づくりを目指しています。上下流連携による地域森林資源を活用した「木づかい推進」が、流域の地域産業を育成し持続可能な村づくりに大きな貢献を果たします。流域の皆様には、こうした水源の村の活動や考え方に、矢作川の流れを絆とした流域の仲間として共感、賛同されることを希望いたします。同時に、私達と共に「木づかい推進活動」に参加され、「ウッドスタート」宣言を行っていただき、流域の樹種であるスギ・ヒノキ・広葉樹等をふんだんに使った生活空間の実現と、「木のある暮らし」の楽しみを広く地域住民に伝える活動に取り組んでいただければと思います。

どうか、今後とも「水源の村 根羽村」に対しましてご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。





## 矢作川流域で進めたいスギダラ木づかい推進活動と

### ウッドスタートの明るく楽しい未来への展望

スギダラ矢作川流域支部長

根羽村森林組合 参事 今村 豊

#### 1 「木づかい」推進の目的と「森の民」としての努め

私は矢作川流域圏懇談会の山部会に参加しており、その部会で「木づかいガイドライン」作成の担当になっています。矢作川流域を巡る様々な課題の内、水資源の安定供給を図るには、これからも上流域の森林整備を積極的に進め、水源かん養機能を持続的に発揮させていく必要があります、そのためには、山村で暮らす森林整備や木材加工の担い手が、林産業によって経済的に自立し、安心して暮らせなければなりません。「木づかいガイドライン」には、こうした「木づかい」による森林整備と木材加工の推進により、人の暮らせる山村社会を作り出していく意義があります。

上流域にある森林資源を整備し、それを下流域等で活用していくことを「木づかい」と呼び、森林を整備し活用していく上流域の「林産業」＝「木づかい産業」の振興により、魅力ある森林と木材加工の職場を地域に確立し、安心して林産業で自立できる山村社会に導いていくことが「木づかい」推進の大きな目的です。



根羽村のスギ人工林



根羽スギの家にして良かった

山村に住む私達「森の民」の存在意義は、多くの先人達によって育成され充実した森林資源を、持続的・計画的に整備し、それらをきちんと活用して自分達の生活の糧とし、また、その森林や木の恩恵を下流域の方々にしっかりと伝え贈ることです。森林の整備を依頼された村民から「見栄えのある山になった、ありがとう」と言われることを最大の喜びとし、伐り出した木材はきちんと製材加工して、皆さんに「すごい木だなあ、やっぱり木の家にして良かったなあ、木のぬくもりに囲まれて幸せだなあ」と言ってもらえることが、森や木に携わる「森の民」の誇りです。

植えられた木は植林されて長い間、水源かん養林として水資源の安定供給という公益的機能を果たしていますが、伐り出されて使われるようになってやっと始めて、

森林所有者や木を使われる方の役に立つことができます。恐らく木の嫌いな日本人はいないでしょう。木の自然な温もりは人の心を和らげます。「木の文化」のある日本なので、育てた木をきちんと使う、そんな普通の木の活用や使いみちを「森の民」は願い、下流域の方々にもっと身近な生活空間で木を使ってもらい、皆で木を使うことで人の集まる居心地の良い地域の公共的な空間も作っていただき、もっと木の魅力に気付いて欲しいと願っています。皆さん、木は大好きでしょ！

しかし、現在の日本においては「林業」という言葉は死語になりつつあり、教科書からは「林業」という言葉が消えています。林業の最前線で働く技能職員の姿は、一般社会からは見ることがないし、どんな風にして木を伐り出しているか、どんな苦勞をしているのかは全く想像できないと思います。そんな状況ですが、この「林業」という産業を支えているのは、全国から集まった森林や木の仕事をしたい、という志を持った若者です。その多くの方は、森林や林業の専門的な勉強をしてきた



志のある山の技能職員

訳ではありません。ではなぜ、彼らはやって来たのか。それは、自然の中で働きたい、自分の力や技能を活かしたい、都会や人間関係は煩わしい、歯車のひとつという感じから抜け出したい、森林や木が好きだ、小さい頃に森林を歩いた、アウトドアが好きだった、山登りに夢中だった、一資本家の奴隷でなく社会的使命感のある仕事に就きたかった等、様々ですが、やはり基本的には「自然の中で仕事がしたい」、「自分が主役になって成長したい」、「今自分が存在し働くことに対する実感を得たい、生きることへの真摯さが大切だ」という面から、林業が自分には最も相応しい、という思いがあってこの職業を選択されています。今は、実戦力と志のある「森の民」として活躍されていますが、ある意味、林業は「志産業」と言えます。

自分が伐採・搬出した森林の将来が楽しみ、と多くの職員は口にします。そんな頼もしい彼らと話し合っていると、私達は彼らにとって夢のある職場にしなければならないと痛感します。そのためにもっと私達が社会に働きかけて、山村が生き残れて、経済的に安心して林業に取り組めるような社会的なシステムを構築しなければならないと思います。そうしないと、今働く技能職員のモチベーションの持続や、社会的に引き継がれていかなければならない将来的な林業の人材を確保することが困難であるし、夢や希望を持って山村や林業に就職する者が、本当に志のある限られた方に特化されてしまうと思います。現状は、こうした志ある



自分で伐採した山の将来が楽しみ



若者に支えられた産業と言っても過言ではないでしょう。「木づかい」推進は私達が今取り組める自助努力のひとつです。木を贈り届ける立場から、自らの存在意義も問いかげながら、木の持つ魅力、森林や木と過ごす豊かな時間を下流域や流域の方々に伝え、もっと身近な生活空間を流域の木で満たして欲しいと思います。



「木づかい」を推進する「木づかいガイドライン」は、例えば、このような森林組合の最前線の技能職員等が山村社会で安心して暮らせることや、青少年がこれから森林や木を対象とする職業に就けるように導く方法にも配慮しながら、現状を打開するためにはどんなトライが必要なのか、検討・提案しています。こうした検討・提案の中で、

森林や木の活用、山村における農林業による持続可能な地域づくり、里山の活動グループ同士の新たな「木づかい」をきっかけとした連携、山村の様々な元気を生み出す新たな潮流づくりにも結びつきたいと考えています。「木づかい」が流域内の社会に広く浸透することで、山村の林産業の振興が図られて、上流域の山村等の雇用の場が確保されます。その結果、若者のＩターン受け入れ等による定住促進が進み、新たな「森の民」が誕生して過疎化が止まり、持続可能な地域づくりに結びつくような成果を期待しています。

また、山村では林業を支える若者の存在が常に身近にあるため、彼らの想いを知る機会が多く、物理的に厳しい職場環境、決して高くない給与、チームの和が必要とされる人間関係等から、彼らの本音や今後の将来設計について考えずにはいられません。組合経営的にも、森林整備部門と製材加工部門の戦略や、利益の向上に向けた取り組みが常に頭から離れません。

従って、私にとって「木づかい」とは、山村社会の存続に関わる必然的に取り組まなくてはならない課題であり、「森の民」として生き残るためには誰と、どんな「木づかい」の行動を、誰に対して展開していくのか明確にしなければならない、というモチベーションがあります。



森林組合の製材工場は山村の貴重な雇用の場

## 2 矢作川流域圏懇談会山部会における「木づかいガイドライン」とは

「木づかいガイドライン」は、矢作川上流域にある森林資源を下流域の流域住民に活用してもらう上下流連携により、流域内の森林整備を推進させ、同時に地域の林



さあ皆で樹木の配置を考えてみよう

産業等の地域産業の振興を図ることにより、活力ある流域社会を構築しようとするものです。同時に、流域の方々に森林や木の魅力を伝え、「木づかい」推進活動に私達と共に参加していただくように呼び掛けるものです。一緒に行動して検討したり、体験してもらう多くの場面を提供して、森林や木と過ごす時間の楽しさを感じていただければと思っています。

その内容は市民、行政、業界、研究機関が一体となって、現在実践されている「木づかい活動」も含め、これからどのような行動を展開していくことが、この流域の「木づかい」推進に結びつくのか、流域内には現在どのような取り組みが行われているのかを把握しながら、その一つひとつの取り組みを、その実践者から伝えたい相手を意識して、市民の目線から提示しようとするものです。山部会の他の2つのテーマである「山村担い手事例集づくり」、「森づくりガイドライン」の検討と併せて、毎回メンバー同士で、どのような「木づかいガイドライン」を作成するか検討しており、現在その原案が固まりつつあります。



信州大学による次世代に向けた低コスト造林地調査

「木づかいガイドライン」の意図していることは次のとおりです

- ① 市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと
- ② 現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取り組みを「見える化」すること
- ③ 「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること
- ④ その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しみを伝え、共感と活動を呼び起こすこと
- ⑤ 木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと
- ⑥ 「木づかいガイドライン」を手にとると、すぐに行動したくなるような「さあ～しよう」という市民目線に沿った提案とすること



### 3 「木づかいガイドライン」と矢作川流域で進めたいスギダラ木づかい推進活動

「木づかいガイドライン」は、市民、行政、業界、研究機関のそれぞれの立場の方々が、現在行っている「木づかい活動」を、今後対象者として働きかけたい相手を想定しながら「さあ～しよう」と言う形で、提案するものです。



インパクトがあって盛り上がった若杉さんの講演

今回、この提案の原案検討中に「全国スギダラケ倶楽部」の若杉会長をお招きしてご講演をお願いし、その活動内容を参考にさせていただきました。感想を一言で言えば、すごい一言です。様々な立場の方々が、様々な公共施設等をスギダラケにする活動を全国各地で展開されていて、その仕掛人が若杉さん、ということですのでいいエネルギーだなあーと驚きました。また、全国各地でどんどんスギダラケの活動が人々に伝播していく様子や、それも優れたデザイン提案をされる実力ある内容で、その上、何だか皆で踊りまで作って盛り上がっている、うーんすごすぎる。感服しました。それに話が面白過ぎる。振り返って、私達の活動は（まだ始まっていないけど）固いのかなあー。

いずれにしても、若杉さんが平成 26 年 9 月 19 日に根羽村に来ていただいたのをきっかけに、メンバーの丹羽さんの上手な取り計らいで「スギダラ矢作川流域支部」がめでたく発足いたしました。一応、今までの成り行きと村長の許可を得て、私今村が支部長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願ひします。まだ、皆様に確認しておりませんが、支部活動の方向性と目的（案）は次のとおりです。

#### 支部活動の方向性と目的（案）

「スギダラ矢作川流域支部」は、「全国スギダラケ倶楽部」の活動趣旨に準じ、戦後の復興期に段階的に植栽されてきた矢作川流域のスギやヒノキを始めとする人工林をきちんと活用することにより、流域内の林産業や山村・里山に活力を生み出し、同時に、矢作川流域市民の全ライフステージを対象とした「スギダラ」活動による木づかいを推進することにより、市民生活の様々な場面において魅力的な木に彩られた生活空間を創造して「地域の人の輪」、「地域の元気」を生み出すことを目的とします。併せて、流域内の各市町村から「ウッドスタート」宣言をいただき、「木づかい推進活動」への参加と協力に向けて、流域一体となった取り組みを展開していきます。

注)「スギダラ活動」とは、流域内のスギ・ヒノキの人工林や広葉樹をきちんと活用して、あらゆる生活空間を「スギダラケ（ヒノキダラケ・広用樹ダラケ）」にする活動である。

現在、山部会のメンバーで検討している市民、行政、業界、研究機関による「木づかいガイドライン」による「さあ～しよう」の内容は次の表のとおりです。提案者、モニター、場所についてはまだメンバーによる検討（案）の段階であることをお断りしておきます。これらの名称について、公開するか迷いましたが、「全国スギタラケ倶楽部」のオープン性に準じ、また矢作川流域のリアル感を感じてもらいたいため、検討（案）のまま提示しました。これらの内容について、「スギダラ矢作川流域支部」活動の一環として展開していきたいと思えます。また、こうした「木づかいガイドライン」による取り組みを矢作川流域一体で進めていく時の思想的なものとして「矢作川ディズ」も作りしましたので、併せて紹介します。



根羽村での木づかい検討会・どこでもブランコの試乗

#### 木づかいガイドライン 市民編A（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	弓矢づくりにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	根羽
2	自分の好きな木のペンダントを作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
3	自分でマイお箸を作ってみよう	ネバリン	小学生	根羽
4	自分のお家の木の表札づくりチャレンジしてみよう	ネバリン	小学生	根羽
5	自分の好きな板をピカピカに磨いて自分だけの宝物にしてみよう	根羽小	大人	根羽
6	自分で薪を作ってドラム缶風呂を沸かし湯につかろう	ネバリン	小学生	根羽
7	木の葉っぱで部屋の匂いをよくしてみよう	根羽小	小学生	マイルーム
8	木のカルタ取りにチャレンジしよう	ネバリン	小学生	原っぱ
9	自分のマイツリーを見つけて名前をつけよう	丹羽	ファミ	恵那
10	いよいよ自分で森づくりにチャレンジしよう（サクラ山・花の山）	伐採者秀美	新婚	根羽
11	木の幹（マイツリー）にハンモック（どこでもマイウッドデッキも）を吊るして涼しく昼寝してみよう・山の中のコーヒータイムを楽しもう	丹羽・ハンモック 2000	ファミ	恵那
12	ツリーハウスに遊びに行こう	T 建設	ファミ	根羽檜原
13	自分だけの露天風呂と足湯を手に入れよう	ネバリン	女子	根羽檜原
14	自分のお風呂に木を浮かべて香りを楽しもう	根羽小	女子	お風呂
15	日本の代表 50 種の樹木を覚えよう（葉の標本づくりにチャレンジ）	豊田森組	大学生	豊田
16	自然の生き物観察場所の看板を立てよう	豊田森組	小学生	豊田
17	日本人なら木のお風呂のある温泉につかろう（中房温泉）	中房温泉	熟年・	安曇野



		沖・松井	青年（土屋・長谷川）	
18	チェンソーアートを学ぼう	ネバリン	青年	根羽
19	色々な木のおもちゃづくりや木工にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
20	きれいな川で遊ぼう	JTN	小学生	根羽
21	自分だけの滝に道を開けてマイナスイオンを浴びよう	こもれび	女子	根羽
22	木のある公園のウッドデッキで読書しよう（ブックレビューもつくろう）	ネバリン	読書人	安城
23	木と森のある素晴らしい大学に遊びに行こう（信州大学農学部ゆりのき）	信・名大生	高校生	信大・名大
24	筏（ボート）で川下りにチャレンジしてみよう	筏隊・アル	中学生	岡崎・飯田
25	木のお店案内ブックをつくろう・木のアンテナショップに遊びに行こう	沖・松井	お仲間	流域内
26	スギダラチームの輪を広げて全生活空間をスギダラけにしよう	若杉・丹羽・今村	木の人	豊田駅・トヨタ自・アイシングループ・安城市
27	夜空を見上げ星と森の声聴こう	星と森の人	小学生	根羽森沢
28	木の科学実験で木を良く知ろう・木を使おう・木を楽しもう 輪っば弁当箱づくりにチャレンジしよう	根羽小・花野屋	小学生 ファミ	エコフルタウン 根羽
29	自分達の力で山の木を搬出して地域通貨を手に入れよう	南木	山親父	根羽・豊田
30	自分達の力で豊田から根羽まで縦走路を整備して休憩小屋を建てよう	山岳会・店	豊田隊	根羽・豊田
31	自分で取り組んだ森の健康診断を活用しよう	矢作川研	豊田人	豊田
33	木の小屋においでよ（中村好文さんと連携）	中村好文	開拓者	遊休農地

木づかいガイドライン 県・市町村編B（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	山主森林経営講座に参加して自分の山を管理の仕方を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
2	森林自然観察リーダー入門講座に参加して自然観察の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
3	間伐ボランティア初級講座に参加してチェンソーによる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
4	山主自力間伐講座に参加してチェンソーを使って自分の山の間伐しよう	豊田森組	豊田人	豊田
5	セミプロ林業作業員養成講座に参加して林業就業者を目指そう	豊田森組	豊田人	豊田
6	森林セミナーに参加して色々な森林を歩きながら森林管理を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
7	矢作川源流の森ウォーキングに参加して源流域の動植物を観察しよう	豊田森組	豊田人	豊田
8	夏休み昆虫観察に参加して森の生き物の生活や不思議さを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
9	初めての間伐体験に参加して簡単にできる間伐を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
10	森林調査いろいろ学習会に参加して植生・林分・土壌調査の基本を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田
11	「木づかい」いろいろ発見に参加して原木きのこの菌打ちを体験しよう	豊田森組	豊田人	豊田
12	森林の草花調べに参加して高原・山地・丘陵の草花を学ぼう	豊田森組	豊田人	豊田

13	間伐してベンチの製作まで全工程を自分達で行い、公共施設に寄付しよう	豊田森組	豊田人	豊田
14	様々な山の助成金制度を活用して自分の山づくりに取り組もう	各森組	森林所有者	豊田他
15	様々な木の家づくりの助成金制度を活用して地元の木で家を建てよう	各県	お施主	各県
16	地元の木を使った住宅見学会に参加して地元の木で家を建てよう	各県・ 工務店	お施主候補	各県
17	木造公共施設を訪ねて木の使い方を参考にしよう	豊田・ 根羽・工 務店	市町村	豊田・ 根羽
18	各地で取り組まれている間伐材利用事例を参考に矢作川流域材を活用しよう	各県	市町村	
19	根羽スギの家モデル住宅に体験宿泊して木の家を楽しもう	根羽村	お施主候補	根羽
20	長野県地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	ネバリン	各 NPO	根羽
21	根羽村地域発元気づくり支援金事業に応募して皆のふるさとを作ろう	根羽村	村民	根羽
22	根羽スギ柱材 50 本無償提供事業を使って有利に根羽スギ住宅を建てよう	根羽	お施主	根羽
23	市町村有林を使って新しい森づくりにチャレンジしよう(伐採・造林一貫施業)	ネバリン	森林所有者	根羽
24	市町村有林を使って子供たちに間伐を教えよう	各森組	小中学生	全市町村
25	皆で憩いの森の木道・木橋づくりにチャレンジしよう	ネバリン	市町村	根羽
26	都市の中心部に緑の憩いの公園を計画してつくろう(豊田市・番外飯田市)	豊田飯田	市町村	豊田・飯田
27	長野県 信州型エコ住宅推進事業 50～80 万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
28	長野県 信州型住宅リフォーム促進事業 20～50 万円の助成を利用しよう	長野県	お施主	長野
29	岐阜県 産直住宅建設支援制度 105,000 円相当の木材支給を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
30	岐阜県 ぎふの木で家づくり支援事業 20 万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
31	岐阜県 ぎふの木で内装木質化支援事業 10 万円の助成を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
32	岐阜県 ぎふの木で家づくりローン支援制度 優遇金利による支援を利用しよう	岐阜県	お施主候補	岐阜
33	愛知県 あいち認証材利用促進事業 構造材・造作材等 8,000 円/m <sup>2</sup> の助成	愛知県	お施主候補	岐
34	材料施工分離発注方式で適正な木材製品価格で計画的に建築材料を入手しよう	豊田市	各市町村	豊田

木づかいガイドライン 業界編C (案)

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	君も人生の方針として自然科学や農林業を選択しよう	ネバリン	中・高校生	根羽
2	君も、自分が主役になれるクリエイティブ産業・農林業の担い手になって地域を元気にしよう	ネバリン	信大・名 大・岐阜女 子大他	根羽
3	君も夢と希望あふれる地元の森林組合職員になって、豊かな自然の中で森づくりと木づかいを楽しもう	ネバリン	山の人	根羽



4	森づくりの達人（森の民）になるために様々な技能を身につけよう	各森組	山の人	全流域
5	森林簿と施業図を使って自分の山を覚えよう	豊田森組	森林所有者	豊田
6	自分の山づくりのプランを建ててみよう（オーダーメイドの山づくり）	ネバリン	秀美	根羽
7	様々な木材の搬出方法を見学しよう	各森組	山の人	全流域
8	山の技能作業手順書をマスターしよう	ネバリン	山の人	根羽
9	自分の山の木がいくらになるか森林施業プランを提出してもらおう	根羽・ 恵南	山の人	根羽・恵那
10	自然を楽しむ様々なグッズを手に入れて自然の中に飛び出そう	洲崎	女子	豊田
11	国産材の家づくりに実績のある工務店・建築士さんに会いにいこう	お施主	お施主候補	全流域
12	机やイス・家具など一生使える木製品の注文をしよう	A建設	ファミ	根羽
13	一生使える机やイス・家具など木製品を家族で製作してみよう	A建設	ファミ	根羽
14	魅力ある国産材製品のカタログを入手して木のある暮らしをはじめよう	販路開拓	ファミ	長野
15	森づくりと木づかいに取り組む、知って得して面白い魅力的な方のお話を聞きにいこう	事例集	市民	全流域
16	製材工場の端材を使って小屋づくりをしよう	ネバリン	山の人	根羽
17	住宅建築フェアを見に行こう	ネバリン	お施主候補	開催地
18	東京おもちゃ美術館を見学し児童向け木のおもちゃを研究しよう	ネバリン	保育園	東京
19	N社企画 需要創造型イベント・体感ツアー・木の感謝祭に参加しよう	N社	市民	豊田
20	N社企画 パワーホーム豊田プレミアムのコンセプトを学ぼう	N社	市民	豊田
21	木曽川流域材の家づくりのシステムを学ぼう	N社	市町村	豊田
22	オークビレッジ木の時間工作にチャレンジしよう	ネバリン	父と子	根羽
23	木の工作に必要な広葉樹を育成しよう	ネバリン	山の人	全流域
24	スギダラどこでもシリーズで世の中をスギダラけにしよう	ネバリン	市民	全流域

#### 木づかいガイドライン 研究編D（案）

NO	内 容	提案者	モニター	場所
1	地元の大学と地域連携協定を締結して、山村・里山の課題解決に向けて学生と一緒にチャレンジしよう	信大	市町村	根羽
2	持続可能な地域づくりに向けて里山の課題を市民から集めよう	信大	市町村	根羽
3	次世代に向けた森づくりと低コスト造林を確立しよう	信大	山の人	根羽
4	スギ人工林の植物種多様性を評価し、生物多様性保全に留意した森づくりに取り組もう	信大	森林所有者	根羽
5	伐採後に発生するスギ針葉から精油を抽出して商品化に取り組もう	信大	女子	根羽
6	農林一体化事業を支援する地理情報の可視化手法を開発しよう	信大	市町村	根羽
7	山村の聞き書き調査を行い、山村文化を発掘し継承しよう	実践者	対象者	根羽
8	雪害被害林の今後の施業指針を確立しよう	信大	市町村	根羽

9	集落周辺の森林について保残木マーク施業等景観林施業を確立しよう	ネバリン	集落	根羽
10	スギ重ね梁の実用化を実現させよう	ネバリン	工務店	根羽

～人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす

森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルへの誘い

矢作川ディズ～



森林や木とそれを育む矢作川の流れ共に生きるライフスタイルはとても素敵です。身近な生活空間の中に魅力的な木の製品をたくさん取り入れてみましょう。矢作川の流れを見つめ、自然の息吹に耳を傾けてみましょう。愛知・岐阜・長野の3県を流れる矢作川流域圏を対象としたこの「木づかいガイドライン」には、そんな森

林や木の魅力や、それを育む矢作川流域の自然環境に出会い、流域に暮らすひとり一人が未来にむけて互いに関わり合いながら、豊かで魅力的な地域社会を目指して活動していく（楽しむ）ヒントがたくさん書かれています。

この本を作った私たちは、森林や木の魅力や矢作川の自然環境をたくさんの方々に伝え、森林や木や矢作川の自然環境と触れ合うことで市民の輪が広がり、そのことで地域が元気になっていくことを願っている一市民です。それぞれの様々な立場や経験から、森林や木や矢作川の流れに対する愛情や想いや妄想もたっぷりこめて、矢作川流域に住む方々のために、もっと森林や木を好きになろうよ、もっと地域の木を使ってみようよ、もっと森林や木と共に生きている人達と友達になろうよ、そして地域に住むひとり一人が矢作川の自然環境の素晴らしさを共有し、皆で未来に向けて魅力的な森林・川・海・街になるようにアクションを起こし育てていこうよ、という考え方を基本にして市民の目線からこの本を作りました。



根羽村の子供が魚つかみの先生です

この本を読むときっと、あなたのライフスタイルが素敵な森林や木の製品に彩られることになるでしょう。訪ねてみたくなる森林やお店、森や木と共に生きている人と直接会って、話してみたくなることでしょう。もっと多くの同じ気持ちを持つ仲間と出会って、魅力的な地域づくりに参加してみたくなるでしょう。そんなことを通して、あなたの心が今よりもっと明るく朗らかにそして大きく広がって、森林や木とそれを育む矢作川の流れと共に生きていく素敵なライフスタイルに目覚められることを期待しています。





山村の若者たちが楽しい出会い企画を作りました

こんなライフスタイルは、きっと私たちの暮らすこの矢作川の上流から下流に暮らす人々の交流や結びつきを高めることになるでしょう。今まで以上に流域に住む人々への尊敬や感動、そして地域に対する思いやりの心、協力しあうことの大切さに気がつくことになるでしょう。こうしたライフスタイルの基本となるような、地域とそこに暮らす人々と共に生き愛する気持ちが、矢作川の流れを地域の心の絆として、私たちにとって本来あるべき、そして未来

来に亘って暮らしやすい持続可能な流域を作り出していくグッドスピリットであることに違いありません。

私達の故郷の源である矢作川の流れを見つめ、いつまでも美しい森林と川と海に囲まれて人生を楽しみ、愛する家族と共に幸せに暮らすことができるように、今こそ流域に暮らすひとり一人の住民の意識改革から、この豊かな自然環境を持続可能な財産として皆の手で育み、ずっと暮らしていたくなる魅力的な矢作川流域的生活空間「矢作川ディズ」を創り上げていきましょう。

#### 4 ウッドスタートの明るく楽しい未来への展望

矢作川流域における「木づかいガイドライン」の内容や「矢作川ディズ」の思想は、市民から始める「ウッドスタート」と言っても過言ではありません。国土交通省豊橋河川事務所で取りまとめを行っている「矢作川流域圏懇談会」ですが、市民、行政、業界、研究機関が毎月1回のペースで会合しており、これほど多様な参加者でこれだけ頻繁に会合している事例は珍しいのではないかと思います。ただ、愛知・岐阜・長野の各県の職員と各市町村職員の出席については、会合のタイミングや出席の必要性から必ずしも出席率は高いとは言えませんが、こうした里山の担い手の把握・連携、森づくりや木づかいについて、流域を意識して広い範囲から関係者が集まることは、これから推進していきたい「ウッドスタート」にとっては良いことだと思います。

「ウッドスタート」とは、家庭や職場など身近な生活空間に意識して木のある場面を作り出そうとする木づかい活動で、多くの企業やいくつかの市町村で「ウッドスタート」宣言がなされて、すでに活動が始まっています。「木づかいガイドライン」や「スギダラ矢作川流域支部」では、こうした「ウッドスタート」を推進していくきっかけづくりになれば良いと考えています。

「木づかいガイドライン」検討時にすでに多くの意見が出されていますが、山部会に参加されるような方々の全員が青少年期に自然の中で過ごしたことや、木工作、山登り、自然景観に対する



感動等、様々な自然や森林や木に出会った楽しい経験を持っていることがわかりました。こうした経験が青少年時の豊かな感受性によって受け止められて、現在の森林や木に結びつく職業に就いている構図が見られました。このことは、青少年期に自然や森林や木に出会うことの重要性を感じさせます。これらのことから、普段、森林や木に接している山村の「森の民」等が、下流域の青少年に自然や森林や木に出会う機会を作ったり、森林や木と過ごす時間の豊さを伝えてあげることが重要であると思います。

また、青少年は大人の背中を見て育つものなので、やはり大人が森林や木の世界と仲良しであること、森林や木と共に過ごす時間を楽しんでいるところを見せてあげるべきでしょう。

森林を扱う考え方や技術、木を工作する技能、このようなものはあらゆる機会をとらえて、青少年に伝えたいものです。こうした活動は、世代間の隔たりを超えて可能



ですし、むしろお年寄りや熟練技能者のすごい技を青少年に伝える、というのはとても理想的だと思います。青少年は技能を引き継ぎ、お年寄りや熟練技能者は自分の技を教え伝えていくことで、自己の存在感・経験値の肯定感・生きがいを感じられることでしょう。



こうした、矢作川流域のいたる所で、木を絆とした地域や世代を超えた一体感を感じられること、自然や森林や木やそれらを教えてくれる方々への共感や尊敬、木の感謝祭の開催、自然や森や木のイベントを皆で考えて実施してみることで、等が始まると、とても素敵です。こうした、流域内で取り組まれる様々な「木づかい」活動が地域や人の輪をつくることに、直接結びついていくことでしょう。

最後にこうした「木づかいガイドライン」や「スギダラ矢作川流域支部」の発足をきっかけとして、各地で「ウッドスタート」の取り組みを発進させ、世代や行政の垣根を超えた矢作川流域の方々同士の人の輪を育成し、流域の森林資源の活用と森や木とのたくさんの出会いの場をつくることによって、矢作川流域を明るく楽しい未来に導きたいと思えます。最後まで読んでいただき、どうもありがとうございます！！今後共、よろしくお願いします。







根羽村の木づかい推進担当者紹介  
根羽村振興課長 小木曾秀美(右)  
根羽村森林組合参事 今村豊(左)

☆☆ **山は素敵だ** ☆☆

連絡先

根羽村役場振興課 0265-49-2111

根羽村森林組合 0265-49-2120

● 「木づかいライブ・スギダラキャラバン」とは

「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、来年度から根羽スギなどの「木づかい」を推進していきたい根羽村森林組合が中心となって、長野県や愛知県内の里山市民グループ・地元工務店・地域の団体等と連携しながら、各地で行われる様々なイベントとジョイントして、表札づくりなどの木工作体験や、どこでも足湯などの色々な「木のある暮らしアイテム」の展示を行うイベントキャラバンです。

このことによって、根羽スギをはじめとする地域の木材を利用した「木のある暮らし」を提案して、森や木づかいのファンを増やしていくと共に、そうした方々が仲良くなることによって、地域に活力を生み出す「元気な人の輪づくり」も目指しています。

ちなみに「スギダラ」とは、スギをはじめとする人工林を利用して、あらゆる生活空間をスギダラケにしよう、という全国展開している活動のことです。根羽村森林組合は、愛知県を流れる矢作川の水源の村として、昨年9月に設立された「矢作川流域支部」の事務局となっています。

こうした木づかいが進むことによって、県内の森林整備が推進され、また、山村における林業振興による地域の活性化が図られます。今後、森林組合のホームページで紹介していきますので、皆様ぜひ、スギダラキャラバンに遊びにきてください。

「木づかいライブ・スギダラキャラバンの予定」

N O	イベント名	開催日	場所	備考
1	ほんわか里山交流まつり	3.22	豊田市 笹戸温泉	
2	オールアイシン家族まつり	5.17	豊田市アイシン 高丘工場	
3	ワイルドツリーコラボイベント	5.24	伊那市 旧市役所広場	
→ ④	TASKIサミット	7.7	根羽村 しゃくなげ	
5	アイシン夏の陣	7.25	根羽村 檜原	
6	信州安曇野 中房温泉「山の日」 山と木の感謝祭	7.26	安曇野市 中房温泉	
7	全国水源サミット	9.5	根羽村	
8	信州大学農学部まつり	9月下旬	南箕輪村 信州大学農学部	
9	足助夢里まつり	9～10月	豊田市 足助	
10	やまあいフェスティバル	10月初旬	根羽村 山村広場	
11	アイシン秋の陣	11.7	根羽村 ネバーランド	
12	いなかとまちの文化祭	11月	豊田市 豊田駅	
		木の感謝祭		根羽村森林組合



## 木の住まいを担う工務店様へ 家づくりの事業パートナーとして

長野県 根羽村森林組合

長野県にある根羽村森林組合では地域材を使用した「家づくりの事業パートナー」を募集しています。

矢作川の水源地に位置する根羽村では、林産業による持続可能な村づくりを目指しています。そのためには、矢作川上流の森林資源を活用した家づくりを、矢作川の下流域の工務店の皆さまに担っていただくことが最も適切であると考えています。

そうすることで、上流域の森林整備が進み、矢作川の下流域に対する水資源の安定供給が可能となり、同時に豪雨等による災害も未然に防ぐことが可能となります。

また、将来的に木の家づくりに結びつく「木づかい」を推進するには、子供から大人まで幅広い世代で木の魅力や楽しさを知ってもらうことが必要です。このため私達は、矢作川下流域の様々な地域で開催される地元のイベントとジョイントさせて、木工作・木製品の展示・木製品の体感イベントを行う「スギダラキャラバン」を行います。

このことにより、小さな木工品から地域材住宅まで、木製品の水平展開（多くの県民が木を使うこと）と垂直展開（住民一人一人がライフステージで何回も木製品を使う「木のある暮らし」を確立すること）を実現したいと思えます。

そして、今後こうした継続的な「スギダラキャラバン」を地元工務店の皆様と連携しながら開催して、根羽村のような森と共に生きている「森の民」こそが、自ら木を使う豊かさや知恵を下流域の住民の皆さまの前で見せて、木と共に生きる時間の楽しさや豊さを伝えていかなければならないと強く感じています。

ぜひ私達の事業パートナーとなっただけいただき、木の豊さを伝え「木のある暮らし」を推進していただければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

### 根羽村森林組合の「家づくりの事業パートナー」としてのメリット

- ① お施主様に対する家づくりの営業ツールとして根羽スギ柱材 50 本を無償提供
- ② お施主様に対する家づくりの営業ツールとして住まいの助成金の斡旋
- ③ 森林組合ホームページ上での工務店様とのリンクアップ
- ④ 住宅見学会等での木育・木工作体験イベント開催
- ⑤ 矢作川流域「スギダラキャラバン」でのパートナー及び工務店様のご紹介
- ⑥ アイシングループ等への工務店様のご紹介
- ⑦ 木の楽しさを伝える「どこでもシリーズ・木育アイテム」の販売代理店
- ⑧ 工務店様による根羽スギ等活用アイテムの事業を支援
- ⑨ 地元の小学生から始める木育活動と家づくりストーリー（水平展開から垂直展開へ）

# 浄水北小学校 里山づくりの会

## ～現場取材記 Vol.10～

2014年4月に開校した豊田市立浄水北小学校では学校ボランティアと地域ボランティアが連携して学校に隣接した自然体験林(里山)を地域住民が憩える場となるよう整備し、世代を超えたコミュニケーションを図っています。今回は記念すべき「里山開きの日」にお伺いしました。



HAPPY FOREST ★ HAPPY TOWN

### みんなの里山

地域の意見を取り入れて「地域共働型学校作り」を実施している浄水北小学校。開校前よりボランティアで学校林の整備などを行っています。豊田市矢作川研究所、建設会社や豊田市の協力のもと、「共働」で学校林をつくっています。



里山に続く外周路の整備も時間をかけて行いました。



むやみに木を伐採していくのではなく、森林が持続可能な状態を維持出来るよう豊田市矢作川研究所のアドバイスを受けながら整備をしています。



HAPPY FOREST ★ HAPPY TOWN

### 里山開き

これまで整備のために立ち入りを規制していた一部の里山に自由に立ち入りが可能となりました。記念すべき里山開きの日です!



### ここがスゴい! 豊田市初の地域支援室



学校と地域の間をつなぐ場所として開設。地域住民の子ども支援に関することや学校支援に関する活動の拠点となります。



祝! みんなの里山オープン!



閉蒼としていた山林もこんなに気持ちのいい空間になりました



自分が学んできたことを里山づくりで生かしています。ここで子どもたちの笑顔を見ることができ、多くの人との繋がりで様々なことを習得できる姿が嬉しいです。

地域ボランティア 菅野さん



子どもたちが自然の中で学び判断する力、自ら発想する力を養えることが一番の魅力です。私自身もこの活動に喜んで参加しています!

里山づくりの会 副会長 茨さん

### 木の枝スプーンとどんぐりストラップづくり

世代を超えたコミュニケーションを図ることが目的でもあるこの活動では定期的に体験行事を実施し、子どもも大人も楽しめる時間を作っています。



よく森のあそびに参加するよ!  
これから里山でいっぱい遊びたい!



自分たちの地域にもこの活動を取り入れたい方  
見学・視察、歓迎します!  
詳細はお問合せください。



浄水北小学校 地域支援室  
0565-63-5355

<http://satoyama.booo-log.com/>

KouLife 18

降り積もった落葉は褐色へと変わり、この町にも、いよいよ冬がやってくる。

らして検索

### 山部会の活動日程

- >> 第24回 WG 豊田 5月15～16日 (金土)
- >> 第25回 WG 根羽 6月11日 (木)
- >> 第26回 WG 恵那 7月24～25日 (金土) 愛知・川の会と共催予定
- >> 第27回 WG 岡崎 8月21日 (金)
- >> 第28回 WG 東幡豆 9月25～26日 (金土) 海部会との合同開催
- >> 第29回 WG 岡崎 10月16～17日 (金土)
- >> 第30回 WG 恵那 11月27日 (金)
- >> 第31回 WG 豊田 12月21日 (月)
- >> 第7回山の地域部会 日時・場所検討中



## 安城市等関連イベント

7月7日 TASK I(多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市、根羽村)サミット

場所 しゃくなげ

午前 各市発表・シンポジウム(根羽村長の発表あり)

昼食 約80名 各市長他参加者(豊部屋・ホール)

午後 各市参加者によるテーマ別懇談会(参加者のテーブルを動かして)

- ・舞台の上に市長等にあがってもらう
- ・根羽村長も上がる
- ・参加者席の後スペースは、根羽村の展示・特産品販売コーナーにしてよい
- ・木づかいライブ スギダラキャラバン+樋口さんの木のおもちゃの見込み
- ・特産品は、ネバーランド・森林組合・日向の里等でウッドデッキ等を使って販売
- ・昼食は「杉っ子餅」に依頼済(根羽スギ弁当箱になる見込み)

7月25日 デンパーク無料開放デー

- ・デンパーク展示会場で「樋口さんの木のおもちゃ+ウッドデッキ等の展示」を試行してみる。
- ・集客効果が見込めればデンパークで1~2ヶ月展示できるので、その試行となる

7月30・31日 安城市ネイチャースクール児童のみ40名

30日 檜原施設・農家民泊 31日 グリーンハウス森沢

30日 檜原川遊び・工作(輪っば・表札・弓矢等)・五平餅等・農家民泊

31日 農家で朝食・間伐体験・昼食(おこわ・しし鍋)

・添乗今村の予定

水資源の保全と上下流連携による流域社会の持続可能な発展に向けて

矢作川上流域の森林資源の多くは、人の手によって植えられた 40 年生以上のスギ・ヒノキ等の人工林です。こうした人工林は、平地の少ない上流域の山村が木材生産を行って、地域経済的に自立を図るため森林資源として育成されてきました。植林、下刈、間伐、木材搬出のような森林資源育成の仕事は、山村社会に貴重な雇用の場を生み出し、こうした「山村に住む人」が森林に携わることによって上流域の山村経済が支えられてきました。

また、長い年月をかけて必要な木材を生産するためには、立木に一定量の樹冠と生育空間が必要で、これを維持するためには適切な時期に適切な本数を伐採する「間伐」が最も重要な作業となります。同時に、「間伐」は、こうしたひとつひとつの立木の育成の他に、森林内に陽光をいれて下層植生を繁茂させ森林土壌を育成し、水資源を保持する森林の「水源かん養機能」発揮には欠かせない作業であり、下流域の住民の皆さんに水資源を安定して供給できるのも、こうした「間伐」が「山村に住む人」によって計画的、継続的に行われていることによるものです。

こうした私達「山村に住む人」が今後、ずっと森林に携わる仕事を継続し、この山村上流域に継続的に住むことが可能であるならば、木材生産や水資源の安定供給の他に、森林資源や山村資源を活用して、下流域の住民の皆さまに様々な恩恵を贈ることができるでしょう。そのためには、上流域と下流域の住民がそれぞれの地域を思いやり、共に手を取り合って政策的な配慮も踏まえて、持続可能な流域社会を創り上げていく必要があります。

そこで、根羽村として次のような「水資源の保全と持続可能な流域社会の創造」に向けた上下流連携の提案を行います。

- ① 矢作川下流域の小学生等が水資源の安定供給や木材生産等の「森林の役割」や、木の楽しさ・魅力を「子供の五感」を通して学べる機会を上流域の自治体と連携して各自治体が予算化・制度化すること
- ② 子供の時から木に親しみ、成長に応じて木のプレゼントをする「子供のためのウッドスタート」制度を流域市町村で統一して制度化すること
- ③ 長野県・愛知県・岐阜県を流れる矢作川上流域の森林資源が、それぞれの地産消の概念で各県以外の木材利用を排除するのではなく「矢作川流域材」の名称を定着させて、ごく当たり前で流域内の木材を流域内で利用できるようにすること
- ④ 「安城市木材利用指針」のように上流域の矢作川流域材が下流域で活用できるように、各自治体との産地間連携を強化すること
- ⑤ 「矢作川流域材」を利用した場合のお施主様・工務店への特典制度を創設すること
- ⑥ 「矢作川流域圏懇談会」山部会における「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の作成にあたり、流域参加市町村で予算的な支援に配慮すること
- ⑦ 「下流域住民と共にある上流域活用プロジェクト」をスタートさせること





●根羽村高齢者福祉施設

# ねばねの里「なごみ」 関連施設竣工式



平成27年2月6日  
根羽村





## ごあいさつ

このたび、根羽村高齢者福祉施設「ねばねの里なごみ」関連施設が、関係各位のご理解とご協力により、立派に竣工の運びとなりましたことに厚く感謝と御礼を申し上げます。



当村では、平成7年から村社協で在宅サービスを行ってきましたが、高齢化率の上昇とともに入所可能な地域密着型サービスの整備が必要となってくる中で、それぞれのサービスを一体的に行える「ねばねの里なごみ」が完成するに至りました。この施設の完成により、村民の皆様が安心して地域に住み続けられる環境が整いました。今後、この施設が有効に活用されるとともに、様々な機能を発揮して頂けるものと期待するところであります。

本事業に関係されました皆様方の多大なご苦勞に対して御礼申し上げあいさつと致します。

根羽村長 大久保憲一

## 高齢者福祉施設の拠点

- ねばねの里「なごみ」は、村民をはじめ全ての利用者が「自分の家」「自分の地域」と思って安心してありのままに、その人らしく過ごせることを願って計画しました。
- そのパートナーであるスタッフにとっては、利便性が高く入居者の、その人らしい暮らしを支えながら誇りを持って働ける職場づくりを目指して計画しました。

## 村民の交流機会の拡大

- 入居者・利用者とスタッフが共に輝き、おだやかな暮らしを継続し、地域に密着した「世代を越えた村人たちの交流の場」づくりのモデルとなることを願って計画しました。



## ダイホール

- 日帰りのデイサービス施設の中心となるダイホールは閉じこもりにながちな高齢者が大勢集まって、おしゃべりしたり、歌ったり、体操したり、一日楽しく過ごして、リフレッシュできる空間です。根羽産のヒノキの丸太柱や明るい色使いの家具で、森の中にいるようなイメージをつくりました。また、静養室や地域交流サロン、大きな廊下や陽だまりテラスと緩やかにつなげることで、明るく広がりのある空間としました。

## 団楽コーナー(タタミ小上がり)

- 床を少し上げてあり、そこで静養のため横になったり腰掛けたり、カラオケやコンサート、民謡・踊り、イベント時のステージとして様々な活動に対応できます。



## ユニット(茶臼・大杉・矢作・亀甲)

- 単調な高齢者施設としてではなく、一つの大きな「家」と感じられるように、共同生活室を「居間」と位置づけ、その周囲に変化を持たせながら居室を配置しました。
- 各居室が面する廊下の上部に、自然の光と風が通り抜ける越屋根の吹抜け空間を設けることで、明るく開放的な居住環境を実現しました。
- 居室を南北に配置した場合、北側居室の日当たりが悪くなりますが、自然の光と風が通り抜ける吹抜け空間から、北側居室にも自然光が差し込む配置としました。
- 太陽熱や太陽光、木質バイオマスなど、再生可能なエネルギーを積極的に利用しました。
- 居室の床下暖房や浴室の床暖房に薪ボイラーで暖めた温水を循環することで、省エネルギーに配慮しました。
- 各ユニットの南面の屋根にパッシブソーラーシステムを搭載し、太陽熱を冬季の暖房に用いるとともに、夏季はお湯採りを行い浴室やキッチン給湯に用いています。
- 太陽光発電も同時に行い、施設の使用電力の一部を賄うようにしました。



## 居室

- 基準面積にほぼ近く、中廊下として全体の面積を抑えてコンパクト化にしました。
- ベッド周り3方向の空きを確保し、介護のし易い居室としました。
- 家具を持ち込んだり、ベッドの配置を変えられる広さを確保し、愛着を持ち、自分の家と自覚できる配置としました。
- 根羽産の木材や珪藻土壁、障子の和紙など自然素材を用いることで、普通の民家のような暖かみのある雰囲気としました。





### 施工業者

調査・設計・監理…(株)みず設計、下伊那郡土木技術センター組合、(株)藤測、斉藤工業(株)  
 工事施工……………吉川・片桐特定建設工事共同企業体(吉川建設(株)・(株)片桐工務所)、(株)片桐工務所  
 地元材調達……………根羽村森林組合

### 主な事業名

平成25年度 木造公共施設整備事業根羽村高齢者安心生活空間施設建設工事  
 県産材供給体制整備事業木質資源利用ボイラー施設整備工事  
 平成26年度 介護基盤緊急整備等特別対策事業地域密着型特別養護老人ホーム建設工事  
 地域密着型特別養護老人ホームパッシブソーラー建設工事  
 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)赤坂地区修景整備工事  
 村単赤坂地区修景整備(上段駐車場)工事

単位:千円

事業費内訳 区分	歳 出						歳 入				
	設計監理	工事費	木材調達	地質調査	備品類	計	補助金	起 債	交付金	一般財源	計
管理・サービス棟	31,253	407,962	40,950	-	-	480,165	130,410	187,500	-	162,255	480,165
特養棟・パッシブソーラー	34,290	474,984	51,354	2,625	17,928	581,181	147,991	299,200	131,550	2,440	581,181
木質ボイラー棟	10,590	114,264	-	-	2,268	127,122	46,000	34,900	-	46,222	127,122
修 景 整 備	3,228	41,970	-	-	-	45,198	11,055	17,800	16,290	53	45,198
合 計	79,361	1,039,180	92,304	2,625	20,196	1,233,666	335,456	539,400	147,840	210,970	1,233,666

### お問い合わせ先 根羽村役場

住所:長野県下伊那郡根羽村1762 TEL:0265-49-2111 FAX:0265-49-2277 E-mail:juumin4102@nebamura.jp

中房温泉 家族風呂























どこでも足湯



どこでもブランコ

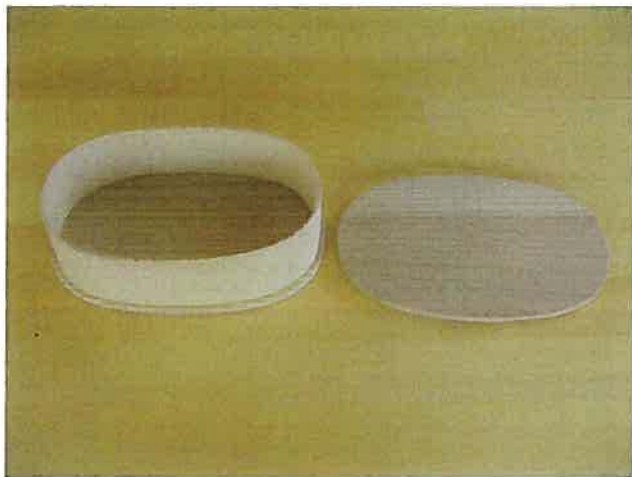




どこでもオセロ



どこでも曲げわっぱ体験





# 派新14

## 派新14

説明 月、村議会定例会の閉  
た。 会あいさつで、再選を  
目的 目指して立候補するこ  
目 としてを表明した。

一方の村議選は、候  
補者未定を除く13派の

うち現職の派、新人4  
派が準備を進める。男  
性は12人、女性は1  
人。党派別では共産2  
人、公明1人のほかは  
無所属。立候補届け出  
書類の事前審査は4月  
16日に村役場で行う。

村長選はこれまで2  
回連続で選挙戦となっ  
ており、無投票となれ  
ば12年ぶり。前回の村  
議選は定数14に対し15  
人が立候補している。

### 曲げわっぱで木を学習

5、6年生 SBC学校大賞優秀賞に

根羽村立根羽小学校  
の5、6年生がこのほ  
ろ、SBC学校科学大

賞の優秀賞を受賞し  
た。木の性質を学び、  
根羽スギを使った曲げ



優秀賞を受賞した根羽小5、6年生

わっぱでお弁当箱作り  
を行った。6年生7人  
が理科学習の一環で木  
の性質について研究。  
曲げわっぱ作りは学習  
の集大成として挑戦  
し、5年生4人も加わ  
って実施した。

一昨年から続けた木  
の性質を調べる実験で  
は、村森林組合の小野  
隆浩さんなどの協力を  
得ながら防腐作用や伸  
縮性、リラックス効果  
など木の性質を15種類  
ほどの実験を通して学  
習。曲げわっぱの材料  
選びには村内の5種類  
の木材からスギを選  
び、弁当箱の木材の厚  
さなども実験で選んだ。

曲げわっぱ木をお湯  
につけてやわらかくし  
て型をしいて巻きつけ  
て作る。木曾の曲げ物  
工房から技術提供を受  
け、必要な道具は地元  
の建具職人の稲垣明さ

んに作ってもらった。  
出来上がったお弁当  
箱を使い、シカ肉のから  
揚げや煮合という郷  
土料理など地元食材の  
お弁当を作り、お世話  
になった人々を招いて  
の試食会を行った。

6年の石原佑夏さん  
は「できるか心配だっ  
たけど小野さんや稲垣  
さんに教わって完成で  
きた」と村の人々へ感  
謝。同じく永井千遥さ  
んは「表彰は根羽のP  
Rになったと思う。村  
の豊かな自然をこれか  
らも守りたい」と喜ん  
だ。

6年生担任の藤木正  
嗣教諭は「身近にあっ  
ても良さに気づかない  
ものがある。これから  
も村にあるいろんなも  
のに興味を持ち、村を  
もっと好きになっても  
らいたい」と話してい  
た。

### 経営者の体験に触れる

飯田市 倫理法人会が講演会

飯田市倫理法人会  
(平田睦美会長)はこ  
のほど、飯田市内で倫  
理経営講演会を開い  
雄さんが「ここに活路

に乗り  
し、  
米の  
講  
た事  
倫理  
ヤ  
が、  
紹介  
する  
会社  
のど  
造す  
理経  
関  
長は  
口減  
ど、  
境が  
てい  
のこ

どこでも展示用ボード



どこでもパネル展示用イーゼル







どこでもバンブードーム（中央のドーム）  
どこでも露天風呂（ドーム中）





どこでもウッドデッキ（木製品を乗せている台）足が全て高さ調整可能





なんでもボックス



木はがき・箸づくりキット



木の丸太皿



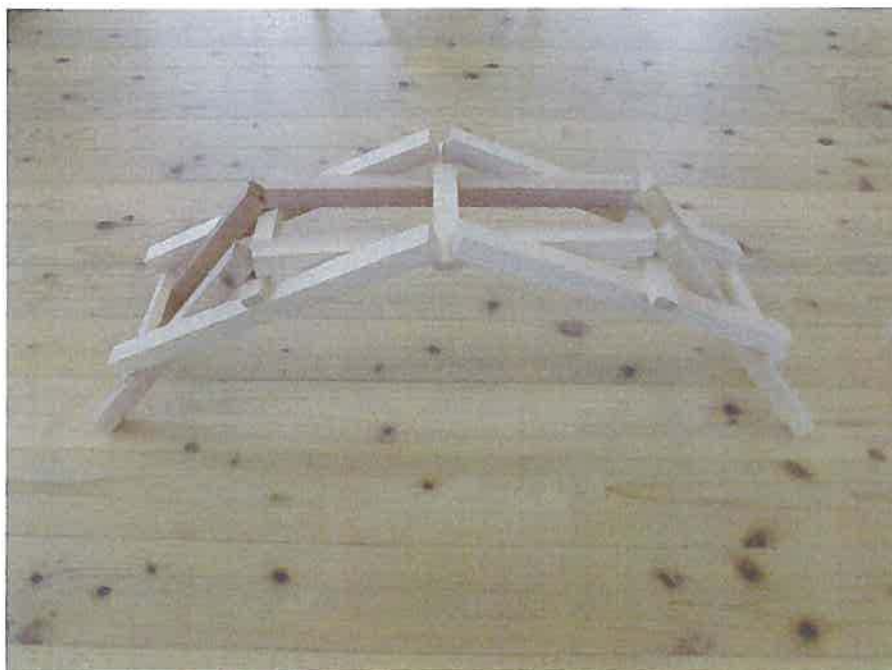


水源かん養実験キット



木橋キット

虹橋



猿橋



錦帯橋





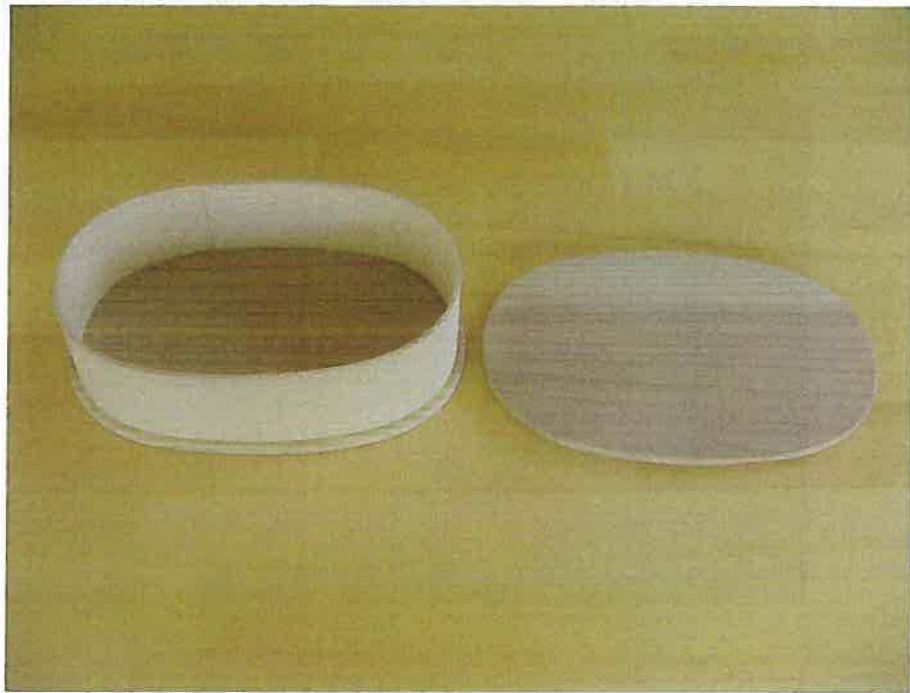
風雨橋



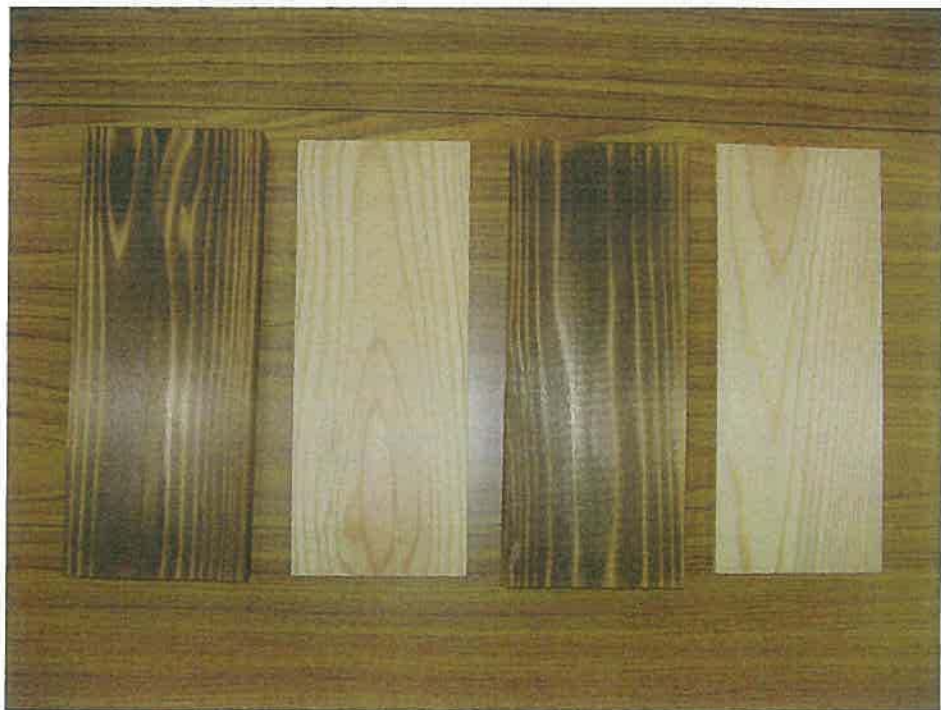
何でもボックス



輪っば弁当キット



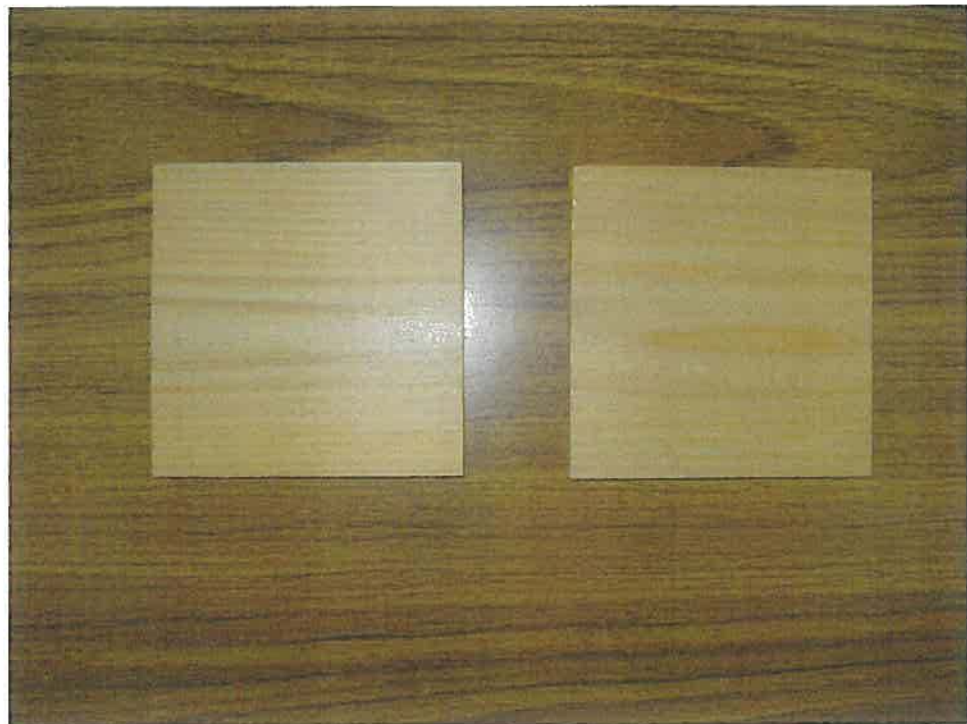
表札キット

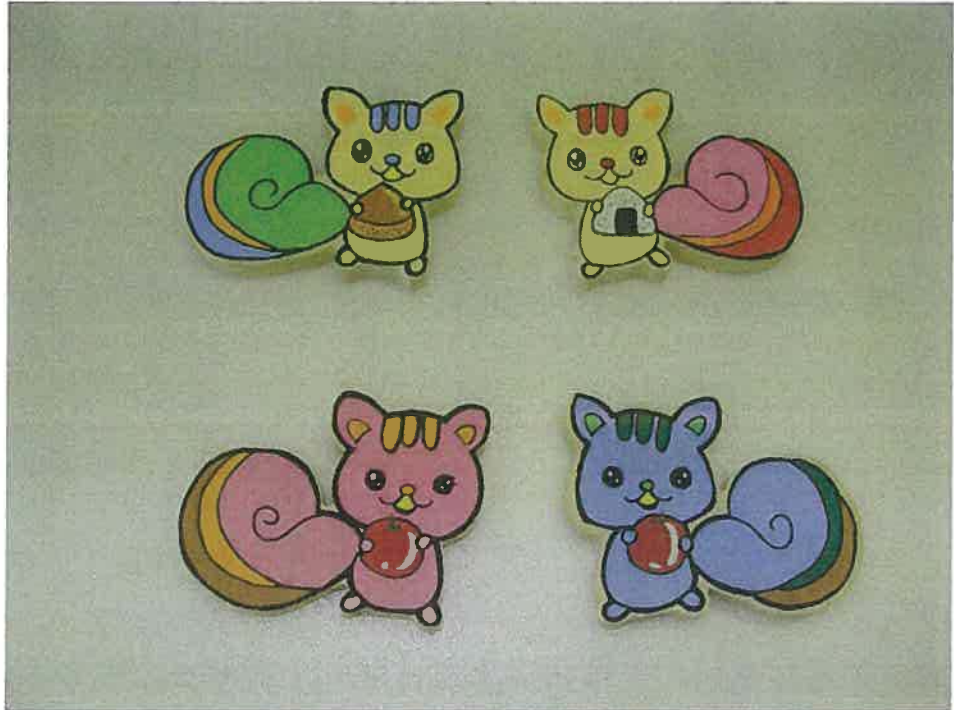






木のペンダント材料







(様式第1号) (第5関係)

信州の木活用モデル地域支援事業実施計画書

27根振第 号

平成27年5月13日

林 務 部 長 殿

長野県下伊那郡根羽村1762  
根羽村

村長 大久保 憲一

平成27年度において、信州の木活用モデル地域支援事業を実施したいので信州の木活用モデル地域支援事業実施要領第5第1項の規定により、事業実施計画書を下記のとおり提出します。

記

- 1 信州の木活用モデル地域支援事業実施計画書  
別紙事業計画書のとおり
- 2 その他添付書類  
事業主体の規約及び構成員等がわかる書類  
事業の公益性、確実性、有効性、発展性、地域の主体性、情報発信性等  
について、それぞれ優位性を記した書類

事業計画書

1 事業の目的

根羽村では長野県内をはじめとして、矢作川流域市町村等を対象に村内の森林資源を活用した林産業により、木造住宅の建築部材を提供する等の木づかい推進を進めているところである。

今年度は、根羽スギ・ヒノキをはじめ、根羽村を含む矢作川流域に存在する多様な樹種を活用した「子どもとファミリーを釘づけにする音の出る動く木のおもちゃ」及び「流域をひとつにする矢作川流域ものさし」をモデル的に製作し、長野県及び愛知県等の児童やそのファミリーを対象にして、子どものときから木の魅力や楽しさを伝え、木づかいの担い手を育成する。流域内に存在する樹木を用いることにより、木のアイテムによる「流域はひとつ」という考え方の定着を図り、木を媒体とした上下流連携・フェアトレードによる地域の活性化を目指す。個々の目的は次のとおりである。

「子どもとそのファミリーを釘づけにする音の出る動く木のおもちゃ」については、村内の交流施設「ネバーランド」に設置し、木の楽しさや魅力による集客効果を見込むと共に、今回のモデル製作をきっかけとして、今後長野県及び愛知県等の保育園・小学校・人の集まる公共施設等に設置・販売できるように働きかけ、特に保育園児・小学生等が木の魅力を五感で簡単に感じとれる機会・場面を広く普及させることで、木づかい推進の基礎となる「木のファン」の拡大を図る。

併せて、その製作・設置・普及にあたっては、設置する地元の工務店・大工組合・自然素材系雑貨店等の下流域のづくり手と連携を図れる仕組みを構築することにより、昨年度作成した「どこでもシリーズ」の普及も含め、上流域の森林資源を活用した木のアイテムが簡単に入手できるように、「上流域にある森林資源を活用する木づかい推進のサテライト化」を図る。

「流域をひとつにする矢作川流域ものさし」については、スケール長を矢作川河川延長の縮小版を基本とし、流域内の樹種を組み木として利用・製作し、それを販売または製作の体験を行うことで、流域内の多様な森林資源についての認識を図る。

また、製作された一人ひとりが住まい・学校・マイポイント等が源流からどの位置に存在するか、スケールに印をつけることによって「私の流域物語」を作り、流域内の方々と「流域内の情報交換をするアイテム」として機能させることによって、こうした「木づかいアイテム」をきっかけとした人の輪づくり・絆づくりによる「流域はひとつ」の考え方を定着させる。



## 2 事業計画

(単位：千円)

事業種目	事業内容	事業費	事業費の内訳			工期	
			県費補助	自己資金	その他	着手 (予定) 年月日	完了 (予定) 年月日
県産材・道の駅等販売促進モデル	「子どもとファミリーを釘づけにする音の出る動く木のおもちゃ&流域をひとつにする矢作川流域ものさし」製作事業	3,100	2,500	600		27.8.1	28.3.10
		3,100	2,500	600			

- (注) 1 事業種目の欄は、事業実施要領第4に規定する項目から選択し記載すること。  
2 事業内容の欄は、活動の内容がわかるように記載すること。(添付資料でも可)

## 3 収支予算

(収入)

(単位：千円)

区分	予算	(決算)	(差引増減)	備考
県費補助	2,500			
自己資金	600			
その他				
計	3,100			

(支出)

(単位：千円)

予算科目	予算	(決算)	(差引増減)	経費の内訳
謝金	400			別紙のとおり
賃金	400			"
委託料	2,300			"
計	3,100			

- (注) 1 予算科目の欄は事業実施要領第6に規定する補助対象経費を記載すること。

## 4 事業完了(予定)年月日

平成28年3月20日

事業名	
事業種目 (いずれかにチェック)	<input type="checkbox"/> 地域分散型木質バイオマス等利用促進モデル <input type="checkbox"/> 木の香り漂う街並みづくりモデル <input checked="" type="checkbox"/> 県産材・道の駅等販売促進モデル
実施箇所	① 根羽村 ネバーランド ② 長野県・愛知県での展示・販売・製作体験
事業の詳細	<p><b>1 事業目的</b> (事業を行う背景・課題・必要性を記載すること) 背景・課題</p> <p>根羽村では、根羽村森林組合から根羽スギ等の住宅建築部材を年間約130棟程度、工務店等へ販売しているところである。今後、さらに根羽村の森林資源を活用した木づかい推進を図るためには、建築部材以外に県民のライフスタイルの中で活用される木製品の開発や、長野県の自然の魅力の中で木製品と楽しく過ごせる時間を意識した、観光客等に喜んで利用していただけるインパクトのある木製品を提供していく必要がある。</p> <p>また今後、根羽スギを取り扱っていただける工務店を確保していくためには、根羽村が県内や愛知県等の保育園・小学校を対象とした木育活動を推進し、木の楽しさや魅力を特に子どもやそのファミリー層を対象として重点的伝え、木のファンとして育成し、将来のお施主様候補となる若いファミリー層を確保していく必要がある。木づかい推進の担い手となっている工務店等が、自力ではなかなか展開できない木育活動等による顧客の確保や、上流域の森林資源活用と結びついた「家づくりの物語化」を「子供とファミリーを釘づけにする音の動く木のおもちゃ」と「流域はひとつ矢作川流域スケール」からスタートさせる。</p> <p><b>2 事業内容</b> (実施の時期、場所、規模、方法等について具体的に記載すること)</p> <p>昨年度、根羽村では「木のある暮らし」を推進するため、根羽村、根羽村森林組合、根羽村商工会、シルバー人材、根羽村小学校、NPO「ねばりん」等を構成員とする「ネバリン特殊木工部隊 スギダラ」を組織し、全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支部を発足させ、県民のライフスタイルの中で活用され、かつ観光客等に喜んで利用していただけるインパクトのある木製品を開発してきた。中でも、昨年度の同事業による「輪っばづくり体験」は大変好評で、県外も含め多くのオフ</p>

アがあり、今後「信州中房温泉 根羽の湯」に浸かって木づかいを楽しむ輪っ  
ぱづくりツアー」等の企画も検討して、温泉、山岳、森林、木づかいという「信  
州らしさ」を全国に向けPRしていく予定である。今回の企画も、こうした人を  
引き付けられる「木のおもちゃ」の製作設置と販売、「流域ものさし」の製作体験  
と販売である。

①「木のおもちゃ」の製作設置と販売

時期:平成27年8月1日～3月10日

場所:設置 根羽村ネバーランド(当初はセット数がないため巡回設置)

根羽村保育園・小学校

豊田市浄水北小学校

安城市デンパーク

長野県・愛知県内の各道の駅・託児所・公園

長野県・愛知県「木づかいライブ スギダラキャラバン」

販売 根羽村ネバーランド

安城市デンパーク

根羽村森林組合事業パートナー工務店

信州大学農学部

伊那市ワイルドツリー(個人店)

内容:「子どもとファミリーを釘づけにする音のでる動く木のおもちゃ」  
の製作

設置用大型アイテム 10種

販売用小型アイテム 5種

②「流域ものさし」の製作体験と販売

時期:平成27年8月1日～3月10日

場所:製作体験 根羽村グリーンハウス森沢

長野県・愛知県「木づかいライブ スギダラキャラバン」

販売 根羽村ネバーランド

安城市デンパーク

根羽村森林組合事業パートナー工務店

信州大学農学部

伊那市ワイルドツリー(個人店)

内容:「流域はひとつ矢作川流域ものさし」の製作体験

流域ものさし 100セットの製作



### 3 事業の優位性

(以下の各項目について具体的に記載すること)

#### (1) 公益性 (地域の実情や住民ニーズへの対応等について記載)

根羽村では、県民のライフスタイルの中で活用され、かつ観光客等に喜んで利用していただけるインパクトのある木製品を開発するために、根羽村、根羽村森林組合、根羽村商工会、シルバー人材、根羽村小学校、矢作川流域圏懇談会等が連携して「根羽村木のある暮らし講座実行委員会」(核心的で技能的な木工作員チームは「ネバリン特殊木工部隊 スギダラ」と言う)を昨年度設立し、「根羽村木のある暮らし講座」を開設した。対象者は広く子供やファミリー等一般県民、観光客である。対象者・モニターの声聞きながら、木製品の開発を継続して進める。

「木のおもちゃ」は極めてオリジナル性が高く、また、その独特の動きと音の出方が斬新であり、多くの子供やファミリーを惹きつける要因が高いため、集客効果が高い。このため、多くの集客を期待したい根羽村ネバランド等に設置する必要性は高く、その設置が期待されている。さらに子供たちやファミリーが木の楽しさに気付く環境を、長野県・愛知県等の身近な生活空間に配置したい。

「流域ものさし」については、静岡県全国スギダラケ倶楽部天竜支部が、浜松市のデザイナー小粥さんが作成した「天竜川流域ものさし」のコンセプトとその木のデザインに感動し、これを根羽村に伝え、共に感動・共感したことから、さらに「水源の村根羽村」が事業化して、長野県をはじめ全国に向けてスタートさせる根羽村と天竜支部の協働プロジェクトである。隣接するスギダラケ倶楽部の支部同士が連携を図ることで、矢作川流域にも同様のアイテムを製作普及させ、「流域はひとつ」の思想定着と上下流連携による地域の元気づくりを推進するなど公益的な面が高い。また、この協働プロジェクトを全国にも波及させることにより、森林県長野県から改めて「流域はひとつ」という上下流連携の意義・重要性を訴えたい。

#### (2) 確実性 (確実性の裏付け等について記載)

・「木のおもちゃ」については、愛知教育大学樋口教授のデザインによるものであり、その試作品による展示効果から集客効果の高さが判明している。ただし、現状では試作品1セットのみに限定されており、今後こうした木の魅力を伝えられる製品機能の優位性を根羽村で確保し、その効果をPRすることにより、本格的な生産・設置・販売に結びつけて、木づかい推進と販路拡大を進める

・「流域ものさし」については、「流域はひとつ」というそのコンセプトの高さが全国スギダラケ倶楽部内で共通認識化されており、ひとり一人の「私の流域物語」がこの「ものさし」に印をつけることによって表現できることに特徴がある。この「ものさし」を流域内の住民同士が製作し、お互いに見せ合いながら、それぞれ個人のテーマによる「流域はひとつ」による流域内の「絆ネットワーク」が確立される可能性が非常に高い

- ・「根羽村木のある暮らし講座」開設に関して、長野県及び矢作川下流域の森林・木のファンから、木材を供給できる林業地域での木工作体験や材料調達の要望が高い
- ・将来、下流域における木づかいの担い手となる下流域小学校生徒に対して、上流域の自治体が木育等の五感に働きかける活動に取り組む意義について、下流域の自治体、工務店、大工組合に理解があり、こうした活動に対して支援する体制がある
- ・「ネバリン特殊木工部隊 スギダラ」の構成員のやる気・団結力は強く高い

(3) 有効性（事業効果等については可能な限り数値化）

- ・現代の子どもの生活環境の中で、スマホ・テレビゲーム等の電子器機に依存する傾向は極めて高い。木の温もりや感触を知る機会や、動いて音のでる木のおもちゃを手にとることなど、木の魅力を知っている「森の民」等がその機会を用意しなければ、子どもたちやその親を含め自主的に手にとる環境はほとんどない、と言っても過言ではない。上流域にある木の存在やその入手を含め、一般人にとって普段の暮らしの中で木の存在は身近に目にして近いようであり、実は遠い。
  - ・そこで何よりも自然に「木の魅力」惹きつけられてしまう要素が必要である。「木のおもちゃ」については、試作品の展示状況（愛知県岡崎市世界こども美術館）を観察すると、子どもたちやそのファミリーの釘付け状態がいたるところで（数種類あるので）見られた。何回繰り返してもなかなか飽きない様子であった。
  - ・ファミリーからはこうしたおもちゃは販売しているのか、どこで入手できるのか、といった声が多く、その時点での製作販売は行っていないため入手は不可能とわかり、がっかりされている方も多かった。このような状況から、おもちゃの製作・設置・販売の有効性は高いと考えられる。
  - ・「流域ものさし」は、様々に樹種を小さな組木にして、手作業で接着加工することに意味があり、様々な樹種を感じを小さなアイテムながら感じ取れるところに有効性がある。
  - ・また、「流域ものさし」は子供なら、源流域からの自宅の位置、男性なら例えば、地酒の販売位置、女性の方なら子供と行く素敵な公園の位置等、それぞれ個人のテーマが作れることが面白く、ひとりで何本も作れば、人の輪づくりや交流も盛んになるなどの有効性がある
- その他
- ・木づかい推進組織による根羽スギ製品の開発と販路開拓の推進
  - ・観光地の魅力度アップに伴う長野県への観光客及び滞在時間の増
  - ・根羽村における「木のツアー」のバリエーション化の促進

#### (4) 新規性

- ・「木のおもちゃ」については、樋口教授のオリジナル作品であり、現在試作された数点のアイテムしか存在しない。シンプルでありながら類似品もなく、また大きさやアレンジを自由に変えられることから、今後様々な応用パターンを創作することができる。
- ・「流域はひとつ」という概念を様々な森林資源の存在と流域の長さを配慮して作られた木のアイテムはこれまでになく、こうしたコンセプトを持った木のアイテムとして、新規性が極めて高い。
- ・「矢作川水源の村 根羽村」だからこそ提案したい、水源の村のオリジナル商品としての新規性があり、本年度7月に根羽村で開催される中部環境先進5都市サミット「TASKI サミット」(多治見市、安城市、新城市、掛川市、飯田市)及び9月に根羽村で開催される「全国水源サミット」で、共通アイテム化提案を図りたい。
- ・原作は静岡県浜松市のデザイナー小粥さんによるものであり、その素晴らしいコンセプトや志を、県境を越えて隣り合う流域同士が連携して広めていく方法もまた新規性が高い。

#### (5) 継続性・発展性(将来計画等について記載)

- ・「木のおもちゃ」については、県内をはじめ、愛知県等への設置個所の拡大を進め、木づかい担い手育成の強化を図る。
- ・現在、根羽村との交流が盛んな安城市では年間2,000~3,000人の新生児が誕生するが、誕生記念品として安城市では「木のおもちゃ」等のプレゼントを検討しており、この対象品目としたい。
- ・安城市と愛知教育大学は包括協定を提携しており、材料提供が根羽村、作り手が根羽村・安城市大工組合、デザインが矢作川下流域の大学、対象者が長野県・愛知県、販売が各工務店・大学等、設置が保育園・小学校・公共施設・安城市デンパーク等、非常に木づかい推進のストーリー性・継続性・発展性が高く、感連する関係者も極めて広い
- ・「木のおもちゃ」の設置は、ひとつのインスタレーション(芸術的要素のあるオブジェ)にもなり、今後様々なデザイン企画が考えられる。転がす木の玉や転がす木のアイテムを子供たちに購入、あるいは体験製作してもらい、様々な場所で異なる形のインスタレーションを設置することで、「木のおもちゃ」巡りが可能となる。
- ・このような木のインスタレーションは「森林県信州」には相応しく、また信州の地から発信したい
- ・「流域ものさし」については、そのコンセプト「流域はひとつ」の思想の定着化を、長野県内をはじめとして全国に展開したい。
- ・昨年度同事業により製作した「輪っぱづくり体験」については、豊田市フリーペーパー「耕ライフ」に掲載し、豊田市内の小学校での体験に結びついた。今回も「耕ライフ」に掲載依頼し、こうした木のアイテムを「耕ライフキット」の名称で販売する。



(6) 地域の主体性（地域住民参画の仕組み等について記載）

根羽村は森林組合を中心にトータル林業（一次・二次・三次産業、全世帯森林組合員、端材・オガ粉・樹皮の木質エネルギー利用等）を実践しているが、さらに大工・小学生を含む村民参加により木づかい推進活動「スギダラ」（街中等、いたるところをスギだらけにする活動）を進める。

根羽小	木の授業	7人×5回=35人
根羽中	山の授業	27人×3回=81人
ネバリン特殊木工部隊	スギダラ	6人×5回=30人
森林組合(スギダラキャラバン)		5人×8回=40人
木の駅プロジェクト		30人×4回=120人
森の民	ネバリン 薪生産販売	3人×12回=36人
	木のある暮らし講座	15人×4回=60人
	矢作川流域圏懇談会	2人×8回=16人

(7) 情報発信性（県民の関心の高さ、事業自体のインパクトの強さ、事業の広報手段等について具体的に記載）

- ・木工品には根羽スギの焼印等を刻印する
- ・森林組合ホームページからの定期的に情報発信をする
- ・本年度事業である愛知県豊田市フリーペーパー「耕ライフ」に根羽村の木づかい推進の活動として年4回掲載（13,000部発行）
- ・本年度の県元気づくり事業によりチラシ・テキスト等で紹介
- ・本年度事業であるアイシンググループとの交流事業で紹介（500人参加）
- ・本年度事業である南信州根羽村バスツアーで紹介（30人参加）
- ・SBCラジオの定番森林組合紹介番組によりラジオトークで紹介
- ・各道の駅等に設置PR
- ・年8回程度開催される矢作川流域圏懇談会、山、川、海部会で紹介
- ・昨年度の事業「どこでもシリーズ」と関連させながら、木のおもちゃと流域ものさしをこのシリーズの一環として取り込んで、「木のある暮らし」のPRを図る

※必要に応じて欄を広げ、数ページにわたり記載してください。

※必要に応じて、内容や金額の根拠となる資料を添付してください。

平成27年度 根羽村 信州の木活用モデル地域支援事業 事業費内訳

単位:千円

区分	項目	品目	金額	内訳	対象者
木のおもちゃ	謝金	製作指導料	200	20千円/日 × 10日	愛知教育大学 樋口教授
	賃金	製作打合せ	200	20千円/日 × 10日	根羽村森林組合
	製作委託料	設置用大型アイテム	1,296	1m <sup>3</sup> /種 × 120千円/m <sup>3</sup> × 10種 × 1.08	
		販売用小型アイテム	194	0.3m <sup>3</sup> /種 × 120千円/m <sup>3</sup> × 5種 × 1.08	
	小計		1,890		
流域ものさし	謝金	製作指導料	200	20千円/日 × 10日	静岡県浜松市 デザイナー 小粥さん
	賃金	製作打合せ	200	20千円/日 × 10日	根羽村森林組合
	製作委託料	流域ものさし	810	7.5千円/個 × 100個 × 1.08	
	小計		1,210		
	計		3,100		



おかざき世界子ども美術博物館企画展

かったん  
こっくん

動

き

や

音

を

楽

し

む

しゅころ

# 木の樋口一成 おもちゃ展

ゆ〜ら  
ゆ〜ら

とことこ

かたかた

とんとん

1/4・1/18・2/15  
(すべて 9:00~15:00)  
には、世界や日本の  
木のおもちゃを取り扱う  
おもちゃ屋さんか  
やってきます!!



2014年12月20日土 ▶ 2015年3月1日日

主催/おかざき世界子ども美術博物館

開館時間/午前9時~午後5時(ただし入館は、午後4時30分まで)

休館日/毎週月曜日(ただし1月12日は開館)、祝日の翌日(12月24日、1月13日、2月12日)、年末年始(12月28日~1月3日)

観覧料/大人300円(240円)・小人100円(80円)

※( )は20名以上の団体料金 ※岡崎市内在住、在学の小中学生は無料(わくわくカードまたは、生徒手帳を提示) ※各標章がいずる手帳所持者とその付添者は無料(各種手帳を提示)

協力/公益財団法人島根県西部山村振興財団 後援/国立大学法人愛知教育大学

親子連れでも大人だけでも楽しめる!

おかざき世界子ども美術博物館  
The World Children's Art Museum in Okazaki

〒444-0005 愛知県岡崎市岡町宇鳥居戸1-1

TEL 0564-53-3511 FAX 0564-53-3642

1-1, Toriido, Okacho, Okazaki, Aichi, Japan, 444-0005

おかざき世界子ども美術博物館

検索

お! おかざき  
世界子ども  
美術博物館





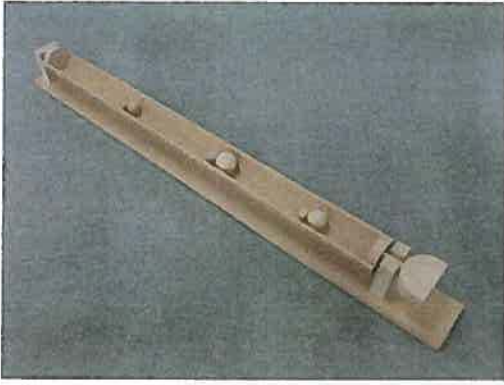




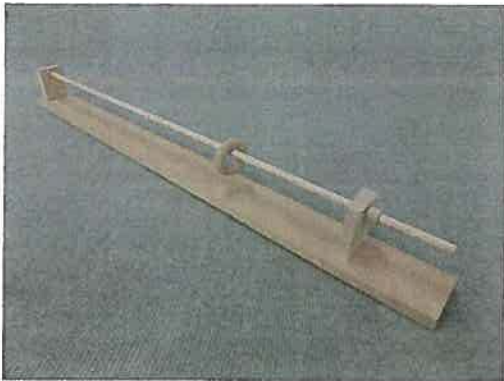
子どもとファミリーを釘づけにする音の出る動く木のおもちゃ 製作予定リスト

NO	製作リスト
1	振ら木
2	ふたり
3	まわり木
4	珠ゆら
5	直方転
6	かんきゅう
7	振れ木
8	スパイラルタワー
9	球おとし
10	輪落とし

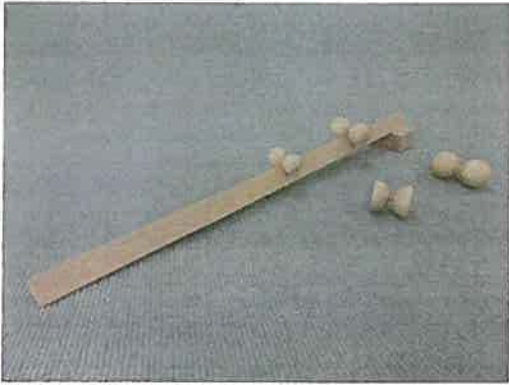




ありんこ 800×70×80

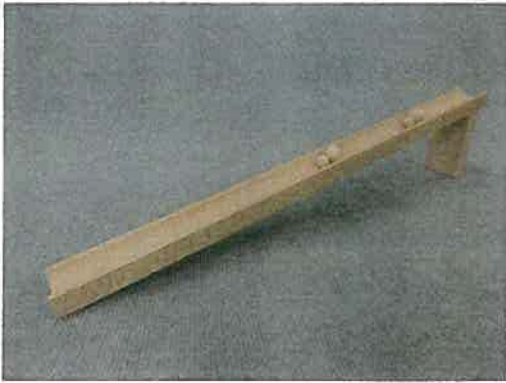


りんく 800×70×80

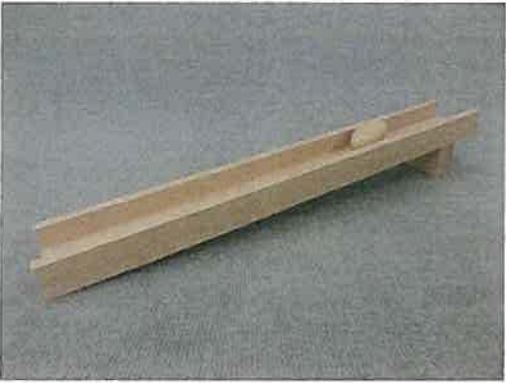


N01

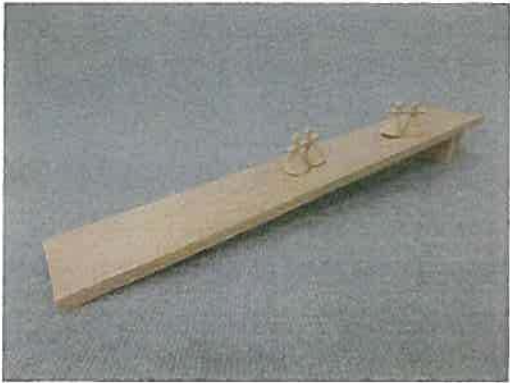
揺ら木 480×60×60



れんきゅう 600×50×140



木の音 600×90×100



N02

ふたり 600×100×70



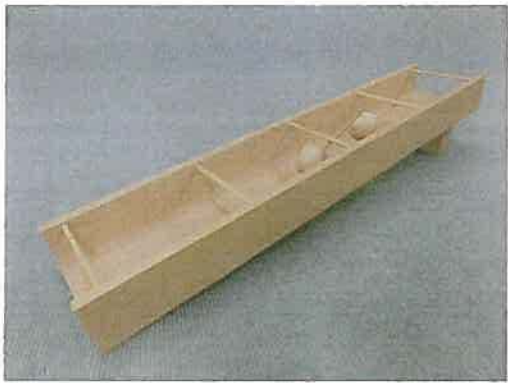
N03

まわり木 600×60×200



N04

珠ゆら 600×120×60

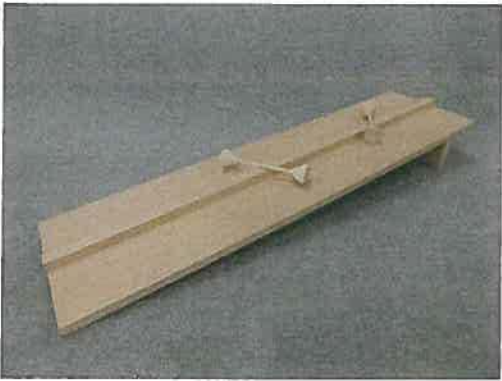


きのみ 600×120×120

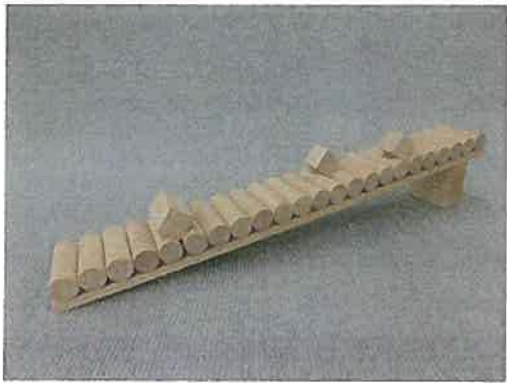




弧ろ木 600×90×100

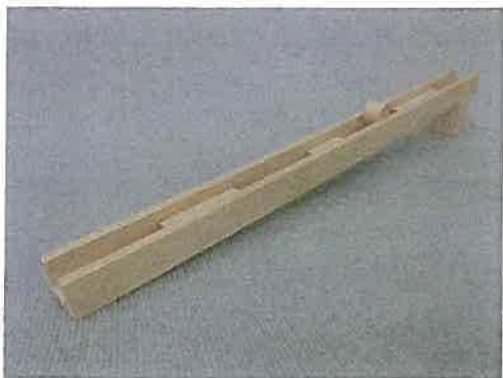


へんこう 700×190×90



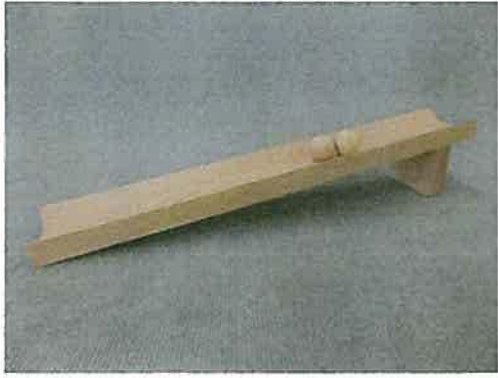
直方転 480×60×90

N05

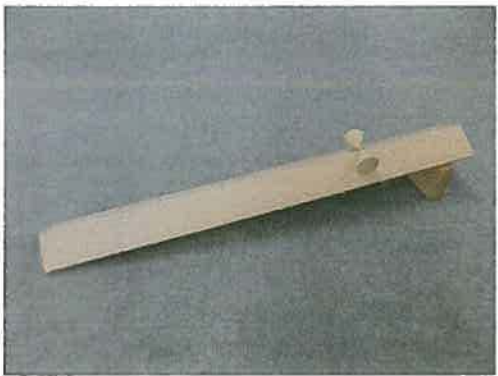


かんきゅう 600×50×90

N06



とうへき 600×90×120

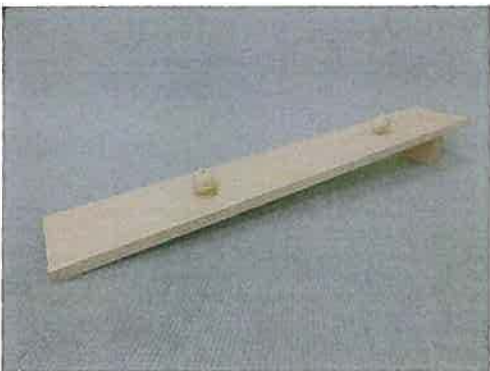


振れ木 600×90×100

NO7



揺れ木(円錐-球-半球) 550×50×150



緩転 600×100×70



NO8

スパイラルタワー 200×450×200



C型おとし 120×500×120



NO9

球おとし 140×700×100

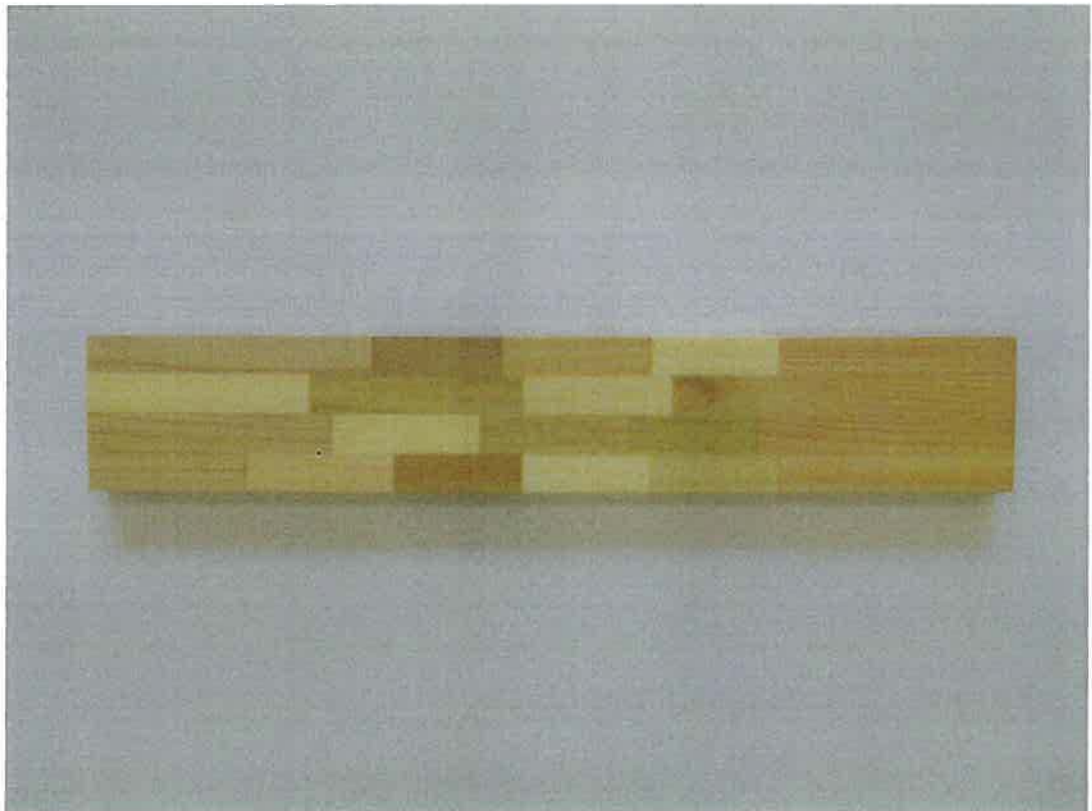
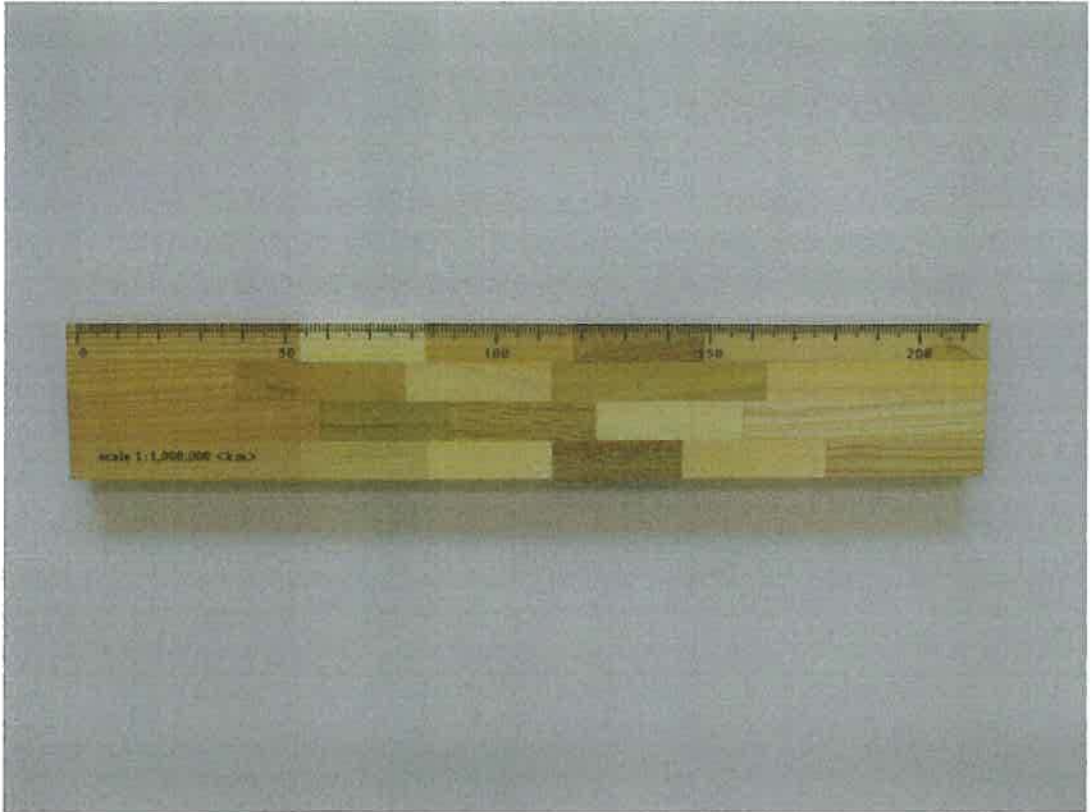


NO10

輪おとし 170×750×120

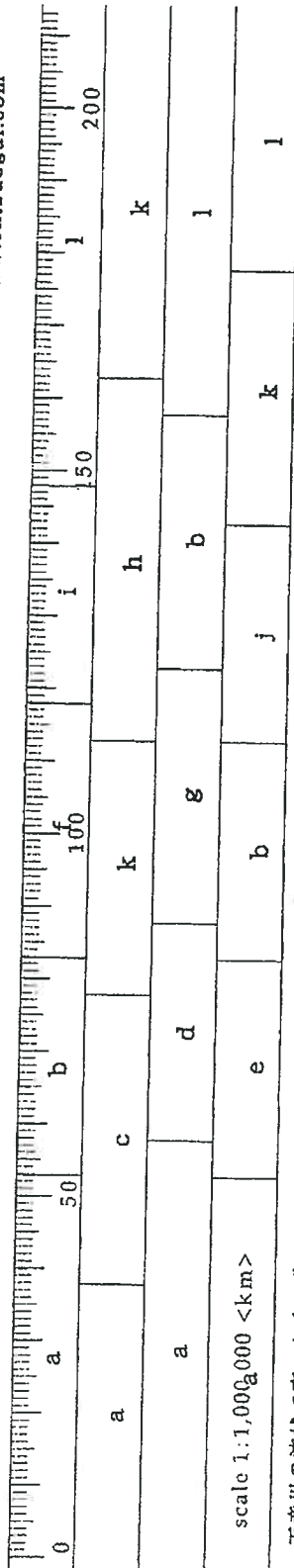


天竜川流域ものさし 試作品



モノサシ No.50

www.chizuogai.com

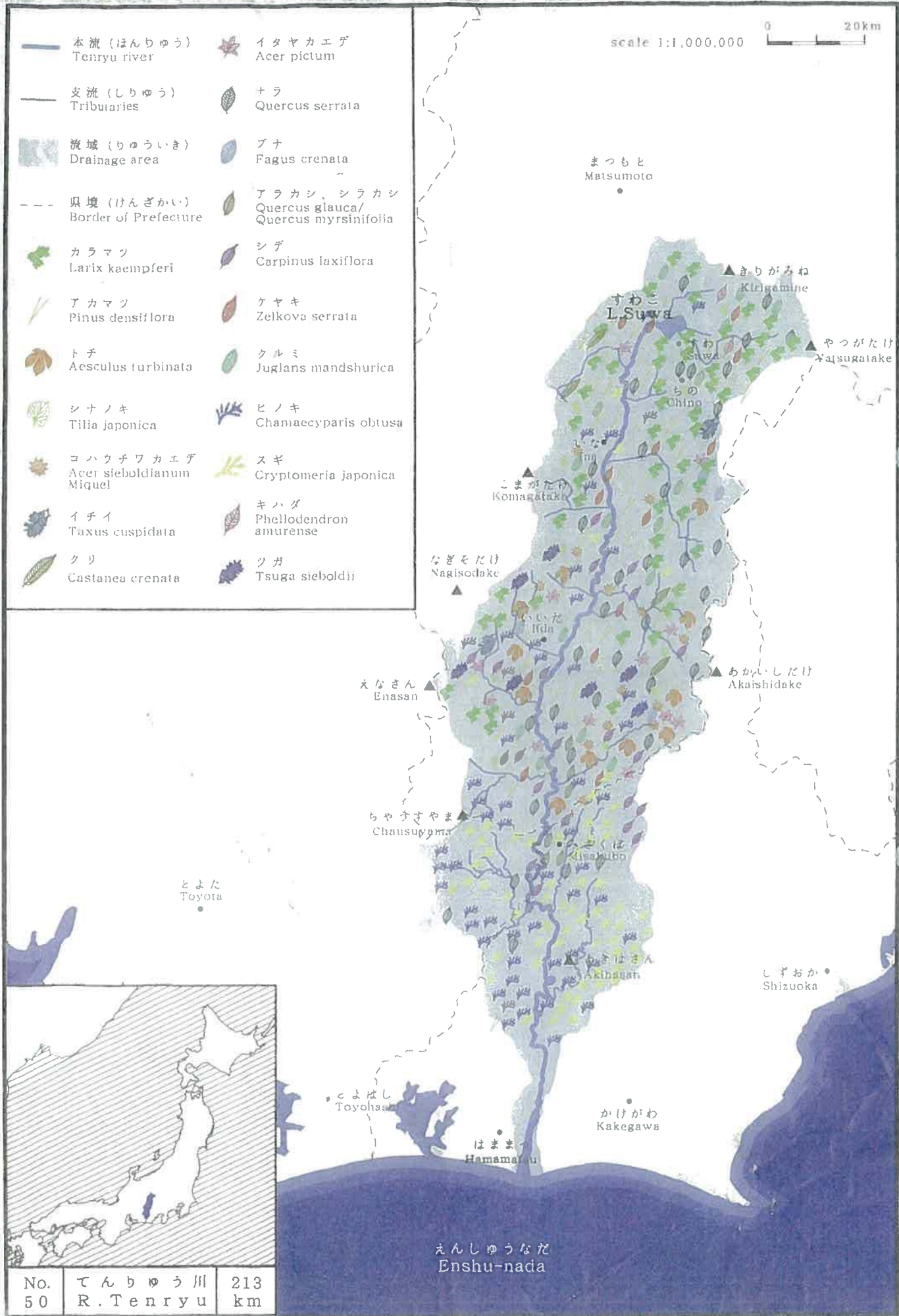


天竜川の流域で育った木で作ったモノサシ。21.3cmは天竜川の長さの100万分の1で、0cm側(上流)から実録の植生を元に木を並べてある。No.50は天竜川の河川番号。/The scale made out of wood harvested in Tenryu River's drainage area. 21.3cm is 1/1,000,000 of the actual length of the river. Different kinds of woods are used from 0cm side (origin of the river) to 21.3cm side (mouth of the river), according to the actual flora. No.50 is the serial number given to Tenryu River.

- a. カラマツ / *Larix kaempferi* b. アカマツ / *Pinus densiflora* c. イチイ / *Taxus cuspidata* d. キハダ / *Phellodendron amurense* e. トチ / *Aesculus turbinata*  
 f. ツバ / *Tsuga sieboldii* g. ナラ / *Quercus serrata* h. クリ / *Castanea crenata* i. ブナ / *Fagus crenata* j. ケヤキ / *Zelkova serrata* k. ヒノキ / *Chamaecyparis obtusa*  
 l. スギ / *Cryptomeria japonica*

- |   |  |
|---|--|
|  本流 (ほんりゅう)<br>Tenryu river                      |  イタヤカエデ<br><i>Acer pictum</i>                                 |
|  支流 (しりゅう)<br>Tributaries                        |  ナラ<br><i>Quercus serrata</i>                                 |
|  流域 (りゅういき)<br>Drainage area                     |  ブナ<br><i>Fagus crenata</i>                                   |
|  県境 (けんざかい)<br>Border of Prefecture              |  アラカシ、シラカシ<br><i>Quercus glauca/<br/>Quercus myrsinifolia</i> |
|  カラマツ<br><i>Larix kaempferi</i>                  |  シデ<br><i>Carpinus laxiflora</i>                              |
|  アカマツ<br><i>Pinus densiflora</i>                 |  ケヤキ<br><i>Zelkova serrata</i>                                |
|  トチ<br><i>Aesculus turbinata</i>                 |  クルミ<br><i>Juglans mandshurica</i>                            |
|  シナノキ<br><i>Tilia japonica</i>                   |  ヒノキ<br><i>Chamaecyparis obtusa</i>                           |
|  コハウチワカエデ<br><i>Acer sieboldianum<br/>Miquel</i> |  スギ<br><i>Cryptomeria japonica</i>                            |
|  イチイ<br><i>Taxus cuspidata</i>                   |  キハダ<br><i>Phellodendron<br/>amurense</i>                     |
|  クリ<br><i>Castanea crenata</i>                 |  ツガ<br><i>Tsuga sieboldii</i>                                |

scale 1:1,000,000 



No.	てんりゅう川	213
50	R. Tenryu	km



平成 27 年 4 月 6 日

全国スギダラケ倶楽部天竜支部とスギダラ矢作川流域支部とのコラボ企画について

全国スギダラケ倶楽部

矢作川流域支部長 根羽村森林組合 今村 豊

## 1 全国スギダラケ倶楽部 天竜支部からのメッセージ

浜松市を拠点に活動するフリーランス・デザイナーの小粥さんが、2012 年、天竜川流域に存在する樹木を使って「スケール NO50」を製作されました。

このスケールは、天竜川の全長 213km を表現するため、100 万分の 1 のスケールの長さである 21.3cm をスケール長とし、かつ天竜川流域に存在する約 20 種の樹木を様々な長さの小さな組木に加工して、手加工で組み合わせて接着し、流域内の豊かな森林資源の存在を表現したカラフルでかわいらしい、おしゃれなスケールに仕上げました。

デザイナーはこのスケールを手にしてもらうことによって、天竜川の長さを認識し、かつこの流域には豊かな樹木が存在すること、流域内の様々な営みが実は有機的に結びついて「流域はひとつ」であることを認識してもらいたいと思っています。

このスケールの存在を知った全国スギダラケ倶楽部天竜支部の袴田さんが、そのコンセプトに共感し、あらゆる地域で、上流域の方が下流域の方を思いやり、下流域の方が上流域を思いやるそんな「素敵な関係」をこのスケールをきっかけにしてつくりあげたい、と願っています。

例えば、こんな風に

「スケールの出発地点は諏訪湖です。皆さんは源流から一体どれだけ離れた所に住んでいるのでしょうか。どこに住んでいる方と友達なのでしょうか。その方々はどんな暮らしをされているのでしょうか。皆さんが好きな森はどこにあるのでしょうか。そんな様々なことをひとり一人がこのスケールに印を付けて、皆で手に持って集まり、そして語り合ってみませんか。お互いに付けた印を見つめ合って、「森と水と暮らしを楽しむ私の物語」を聴かせてください。

天竜支部では、天竜川の流れを絆にして、流域内の様々な立場の方に「スケール NO50」を手にしていただき、こうした流域に住むひとり一人の「私の物語」を交換し合い、「上流域と下流域の素敵な関係」を築きたいと思っています。そして、全国の流域の方々にも、こうしたスケールを作ってもらって、「流域をひとつ」にしていいただければと思います。」

## 2 全国スギダラケ倶楽部 天竜支部からのメッセージを受けて

矢作川流域支部では、今回のメッセージを受けて矢作川流域支部でも同様な「スケール NO52」の製作に取り掛かりたいと思います。

また、この製作を通して誰もが上流域にある様々な木を簡単に入手できる仕組みを見える化したいと思います。矢作川流域の山・川・海のそれぞれの立場の方々が、このスケールを「流域はひとつ 運命共同体」を再認識する共通アイテムとして手に持ち、ひとり一人がこのスケールに印や刻みを入れて、流域の中にある「私の物語」を始めていきたいと思います。

こうしたスケール製作の取り組みを矢作川流域圏懇談会山部会の正式活動とし、「木づかいライブ スギダラキャラバン」の活動の一環として取り組みたいと思います。製作予算については、天竜支部と矢作川流域支部のコラボ企画として、取得に向けて努力します。なお、「スケール」のデザインは、デザイナー（小粥）に委託し、デザイン料も予算内に含めることとします。

また、天竜支部も意図されているように「スケール」のアイテムから「流域をひとつ」にするこうした取り組みを、全国スギダラケ倶楽部にも波及させたいと思います。

注) 矢作川の河川 NO は NO52 です。

(様式1号)

## 信州の木先進的利用加速化事業実施計画書

平成27年5月15日

長野県知事 様

長野県下伊那郡根羽村 407-10

根羽村森林組合

代表理事 大久保 憲一

信州の木先進的利用加速化事業を実施したいので、下記のとおり関係書類を添えて提出します。

### 記

- |   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 補助事業メニュー名   | 新規用途導入促進支援  |
| 2 | 事業計画書       | 別紙1のとおり   |
| 3 | 事業明細書(経費配分) | 別紙2のとおり   |
| 4 | 事業に係る取組目標   | 別紙3のとおり   |
| 5 | その他         | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前年度の事業報告書及び収支決算書並びに今年度の事業計画書及び収支予算書</li><li>・ 定款等</li><li>・ 公益法人等が申請事業者である場合は、出資者又は拠出者の名簿</li></ul> |



(別紙1)

補助事業メニュー

## 事業計画書

### 1 申請事業者及びその概要

(1) 名称	根羽村森林組合
(2) 所在地	〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村 407-10
(3) 代表者氏名	代表理事 大久保 憲一
(4) 連絡先 (TEL,FAX,E-mail) 及び担当者氏名	TEL 0265-49-2120 FAX 0265-49-2432 E-mail nebasin@mis,janis.or.jp 担当者 参事 今村 豊
(5) 設立年月日	昭和 27 年 3 月 19 日
(6) 資本金(出資金) 従業員数(会員数)	23,288 千円 40 人
(7)消費税の課税方式	原則課税
(8) 現在の事業の概要	平成 24～26 年度素材生産量年平均実績 約 4,800 m <sup>3</sup> /年 平成 24～26 年度製品販売量年平均実績 約 1,740 m <sup>3</sup> /年
(9) 自社の強み 事業管理者・専門知識 をするスタッフ等の プロフィール	平成 13 年度に信州木材認証製品工場資格取得 平成 24 年度に JAS 認定工場資格取得 JAS 製品管理責任有資格者 4 名
(10) これまでの活動実績 (事業計画に関連した取組実 績について記載)	平成 13 年度に信州木材認証製品として「根羽スギ」、「根羽 ヒノキ」を登録以降、県内約 30 社の工務店等と提携して、根 羽スギ住宅を 1,000 棟以上建築している。 平成 24 年度より国土交通省主管の「矢作川流域圏懇談会」 に参加し、平成 26 年度に全国スギダラケ倶楽部矢作川流域支 部を発足させた。これらの組織に所属して矢作川流域を対象 とした「木づかいガイドライン」の作成に取り組んでおり、 「木のある暮らし」を普及させるため長野県、愛知県におい て「木づかいライブ スギダラキャラバン」を展開している。

2 補助金を受けようとする事業について

(1) 事業区分	ア 地域材を利用した新製品開発・試験研究 イ 新製品・新商品の普及及び生産性向上対策
(2) 事業名	「伝統構法による大工の腕を魅せる南信州 5 寸角の家」普及事業
(3) 事業の目的又は必要性	<p>・課題 根羽村では、当森林組合と連携を図りながら一般住宅提案「杉風の家」、一般低コスト住宅提案「小さく住まう魅力的な木の住まい」、単身者用住宅提案「多世帯村営住宅」、一般的な事務所提案「森林組合事務所」、大型木造公共施設提案「高齢者福祉施設」等、様々なニーズ・テーマに対応した根羽スギによる木造建築物を村内に建築し、これから顧客となる皆様に対して、建築物を目で見て、木の住まいの魅力を肌で感じ取っていただきながら、県産材を利用した木造建築の魅力とその普及に努めている。</p> <p>今後、人口の減少等による木造住宅の需要減が見込まれる中で、お施主様に選択していただけるような共感を得て多様なニーズに対応した、より魅力的な木の住まいの提案が求められている。同時に、根羽スギ製品をはじめとする製品の生産者や、地域の森林資源がより活用されやすくなるような森林資源の実情に配慮した木の住まいの構法が求められている。</p> <p>・取組み内容 そこで現在、当組合で最も搬出量の多い胸高直径 24～28cm のスギ間伐材を柱材及び梁桁材の構造材として活用できるように、「4m×150mm×150mm」の寸法規格を標準とし、かつ天然乾燥を基本とする「伝統構法による大工の腕を魅せる南信州 5 寸角の家」を提案する。合わせて、より優良な県産材の販路拡大を目的として、木製サッシの開発も行う。この提案による県産材の先進的利用加速化の内容は次のとおりである。</p> <p>先進的利用加速化の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①釘・金物を用いない大工の腕を魅せる雇い竿を用いた芯継ぎと重ね梁による現代的な伝統構法に刷新したこと</li> <li>②「4m×150mm×150mm」の正角材を標準仕様とすることから、入手しやすい末口直径 20cm の素材がどんどん使えること</li> <li>③このことにより、製品生産者の在庫負担が軽減され、加速度的な県産材利用の道が開けること</li> <li>④標準仕様を 2 間×2 間の構造フレームの接続による自由設計とすることから、小屋から大きな住まいまで多様なニーズに対応でき、お施主様への提案範囲が広いこと</li> <li>⑤地盤に固定しない伝統構法であることから、移築が容易で仮設住宅に使用することができ、かつ恒常的な住まいとしてのチープ感がないこと</li> <li>⑥林業立村を標榜する根羽村の林業地と結びつけた提案であり、伝統構法と大工の技能を魅せる南信州の特色ある</li> </ol>

住まいとして独自性が高いこと

- ⑦スギ・ヒノキ等の太い無垢材の現しになることから、素材の美しさが引き立つ魅力的な木の住まいとなること
- ⑧当事業により当構法の普及に必要な構造強度試験等の構造安全性の確認と施工性等データ検証を実施し、かつプロトタイプを根羽村林業地に展示することで、異端児扱いされている伝統構法を現代的な普遍的な住まいの構法として南信州の地から確立し、全国に発信すること
- ⑨当事業により当構法の加速度的普及を図るため、構造安全に配慮した許容応力度計算を行い、当構法のガイドブックを作成すること
- ⑩伝統構法を採用することにより、日本の気候風土に適した開放的な空間が得られるが、その空間の開放性を損わず、また、木の家に相応しい外部開口部であること

以上の内容から次のとおり事業を実施する

- ①2間×2間の構造フレームの強度試験と構造計算  
(壁量、部材、展示個所の地盤・基礎の検討)
- ②施工性を高めるための実証試験
- ③引違い、または、引分け形式の木製サッシの開発
- ④構造安全性に配慮した「伝統構法による大工の腕を魅せる南信州5寸角の家」ガイドブック作成
- ⑤プロトタイプ建築・展示
- ⑦プロトタイプ見学会開催

このことにより、地域資源を合理的に活用した現代的な伝統構法をPRポイントとした南信州ならではの魅力的で独自性の高い木の住まいの発信と普及を図る。

・当事業の必要性及び背景

- ①お施主様の木の住まいに対するニーズの二局化傾向(低コスト住宅対こだわり住宅)があることや、「小さく住もう魅力的な木の住まい」の新バージョンとしてお施主様に対する選択枝を増やしたいこと
- ②伝統構法による木の住まいの魅力・機能・文化的な価値を見直す取り組みが全国的に始まっており、この南信州の地からオリジナルな木の住まいを提案して、先進的で住まいに対する意識レベルの高い顧客を確保したいこと
- ③根羽村の森林資源および森林組合がこうした動きを受け止めて対応することにより、新たなスギの活用方法を南信州から新たな「木の住まい」提案として全国に発信したいこと
- ④単なる伝統構法の復権ではなく、森林資源の実情及び森林組合工場の生産性・不良在庫率の軽減に結びついた新構法の提案であること
- ⑤長さ4m、末口直径が約20cm程度で構造材として使用が可能になることから、当構法により全県的・全国的な間伐材の需要拡大に結びつくこと
- ⑥伝統構法の技能・技の継承を図ることも目的とした具体的な構法提案であり、現代的な伝統構法として刷新することにより、伝統構法の文化的な意義・技術・技を根羽村の林業地域と深く関わりながら次世代に引き継いでいく必要があること



	<p>⑦今後当組合が販路開拓を展開したい愛知県西三河地方において天然乾燥・伝統構法による木の住まい需要が高いため、これに対応して新提案ができること</p> <p>⑧当森林組合等による建築部材の提供が可能な素材生産者が、伝統構法による木の住まいづくりに対応できる工務店を事業パートナーとする現代的な希少価値が高いこと</p> <p>⑨構造材の合理的な使い方等の提案だけでは、丸太一本丸ごと使うことにはなりにくい。同時に優良な県産材の販路拡大も視野に入れて木製サッシの開発を行う。現在、複数のメーカーから木製サッシが市販されているが、開き戸形式が主流であり、樹種に国産材が選択できるケースは極めて稀である。また、一般の建具職が木製サッシを製作することは、事実上できない</p>
<p>(4) 事業内容</p>	<p>○ 事業戦略</p> <p>顧客ターゲット 木の住まいに対して、先進的で意識レベルが高くこだわりのある方、伝統構法で木の住まいを建てたい方、天然乾燥や仕口、継手にこだわりのある方、全国の伝統構法ファンの方、伝統構法をユネスコ無形文化遺産に登録されることを願っている方</p> <p>対象エリア 長野県南信州を始めとする長野県その他、愛知県、岐阜県等の中京圏、関東圏を中心に全国を対象とする</p> <p>規模 延べ床面積 12坪程度から予算に応じて対応、単身者用、夫婦用、夫婦+子供2人用のモデルを設定</p> <p>販路開拓 根羽村内にプロトタイプの住まいを建築して顧客の募集を図る他、南信州木づかいネットワーク、南信州民家の会、愛知県西三河地方工務店等と連携して、販路の確保を図る。この他、東京に事務所を構える「伝統木構造の会」と連携を図り、今後の「伝統構法」継承の発信基地とする。</p> <p>○ 事業スケジュール</p> <p>別紙のとおり</p> <p>○ 必要な技術開発又は製品の概要</p> <p>①4mの定尺材を有効活用するために、主要構造フレーム平面は2間角を原則とするが、床面積の都合によっては2間×1.5間のフレームとする。</p> <p>②主要構造フレームは入手しやすい根羽スギの5寸角材を使用し、安心感を売りにする。足固め、差し鴨居、小屋梁は2丁重ね梁として、柱や梁桁等他の主要部材にも可能な限り5寸角材を使用して、森林組合の在庫ストック負担を軽減し、天然乾燥材を使う。ただし、納まり柱などは4寸角材も可とする。</p> <p>③構造材の継ぎ手・仕口は雇い竿を用いた芯継ぎを原則と</p>

	<p>して、はり間方向は4間とし、桁方向は2間または1.5間単位のフレームを任意の数だけ連結できるようにする。5寸角材を用いる理由として、二枚ほぞ等、仕口の自由度を増す狙いもある。</p> <p>④現在は、5寸角2丁の差し鴨居と桁やつなぎ梁による組み合わせとしているが、差し鴨居上に束を3尺ピッチで入れることにより、差し鴨居と桁等による合成梁とみなせるなら、差し鴨居は5寸角1丁で良い可能性がある。</p> <p>⑤足固めに関しては、5寸角1丁でもよいか検討中である。</p> <p>⑥地廻りから上の小屋組みは片流れ屋根も可能であるが、切妻屋根を原則とする。</p> <p>⑦災害があった場合の仮設住宅も視野に入れ、床、壁、屋根の各パネルを考案し、工期の短縮を図る。16坪程度の床面積なら2日程度の建築日数で対応したい。各パネルは2人で持てるように寸法を決める。</p> <p>⑧平屋建てを原則として、ロフトも取れるように桁高を決める。</p> <p>⑨単身者用、夫婦用、夫婦+子供2人用のモデルを設定する。</p> <p>⑩木製サッシ関連としては、スギまたはヒノキ等の良材を使用し、一般の建具職でも作れるものとする。また、気密性や水密性等の性能確保も目標とするが、性能試験までは今回は実施しない。</p> <p>必要と予想される設計検証 構造強度の確認、施工性の確認、コストの算出等</p> <p>○外部提携先 飯伊森林組合 南信州木づかいネットワーク 南信州民家の会 矢作川流域圏懇談会 全国スギタラケ倶楽部矢作川流域支部 伝統木構造の会 信州大学農学部 岐阜女子大学 愛知教育大学 アイシングループ 安城市 豊田市フリーペーパー誌「耕ライフ」</p> <p>○その他権利関係 根羽村内の黒地地区村有地に既存の「杉風の家」、「小さく住まう魅力的な木の住まい」のモデル住宅に隣接して建築の見込みである。</p>
<p>(5) 推進体制 (組織図)</p>	<p>南信州民家の会を中心に、根羽スギ等を活用した「伝統構法による南信州5寸角の家」のコンセプト住宅を提案・発信する。プロトタイプは根羽村内に建築し、既存の根羽スギ活用木造建築群と併せて見学対象とする。その他、森林組合のホームページに掲載し、南信州オリジナルのコンセプト住宅としてPRを図る。また、「伝統木構造の会」と連携を図り、プロトタイプの全国的なPRを図る。</p>

<p>(6)期待される具体的効果・目標  (県産材の利用量、施設見学者数等の県産材の需要拡大につながる効果を記載)</p>	<p>当事業に採択されれば南信州から新構法による新たな木の住まい提案が可能となり、先進的で意識レベルの高い顧客の確保が可能となる。また、建築部材の調達に森林資源の実情に適合しているため、全県・全国的にスギ材等の普及が高まる可能性がある。</p> <p>「南信州民家の会」を窓口として「伝統木構造の会」等、伝統構法復権のための全国的な人的交流を図ることにより、新たな地域の活性化や文化的な拠点づくり、伝統構法による日本の原風景である美しい伝統的な街並みや建築物の創造を、この美しい南信州の里山に展開できる可能性は大きい。</p> <p>今後、リニア新幹線の開通が予定されている南信州の里山の地で、地域が一体となって「伝統構法」という日本の誇る建築文化による特徴ある景観形成を、この南信州の地から創造し、また全国に発信することで交流人口の拡大を図り地域経済の発展に結びつけたい。</p>
---	---



(別紙2)

## 事業明細書

実施項目	事業内容	補助事業に 要する経費	備考(積算基礎)
「伝統構法による大工の腕を魅せる南信州5寸角の家」普及事業	①2間×2間の構造フレーム許容応力度計算(壁量、部材、展示個所の地盤・基礎の検討)	2,300,000円	試験体費 100,000円/m <sup>3</sup> ×8m <sup>3</sup> =800,000円 許容応力度計算費用一式1,500,000円
	②施工性を高めるための実証試験(2間×2間の構造フレーム)	2,550,000円	作業者賃金 20,000円/人・日×4人×10日=800,000円 技術者調査賃金 30,000円/人・日×2人×10日=600,000円 実施試験費一式 1,000,000円 運搬費一式 150,000円
	③構造安全性に配慮した「伝統構法による大工の腕を魅せる南信州5寸角の家」ガイドブック作成	300,000円	ガイドブック印刷代 300円×1,000部 =300,000円
	④木製サッシ開発費	500,000円	設計費、試作品製作一式500,000円 (今回は耐火、耐久性試験は行わない)
	⑤プロトタイプ建築・展示	16,000,000円	建築経費 仮設 500,000円 基礎 800,000円 木工事 6,700,000円 左官 1,200,000円 屋根 650,000円 建材 850,000円 塗装 300,000円 建具 1,500,000円 電気 500,000円 給排水・衛生設備 2,500,000円 木製家具 500,000円 計 16,000,000円

	⑥プロトタイプ見学会開催	750,000円	パンフレット印刷代 150円×5,000部 =750,000円
計		22,400,000円	

経費区分別一覧表

(単位：円)

経費区分	補助事業に要する経費	補助対象経費	備考
技術者給	2,400,000	2,400,000	
賃金	4,000,000	4,000,000	
謝金	0	0	
旅費	0	0	
需用費	14,850,000	14,850,000	
役務費	150,000	150,000	
委託料	1,000,000	1,000,000	
使用料及び賃借料	0	0	
合計	22,400,000	22,400,000	

注1 補助事業に要する経費は消費税を含む金額を記載すること。

注2 補助対象経費は、募集要項に規定されている区分で記載すること。また、消費税の一般課税事業者の方は、消費税及び地方消費税を除いた額で記載してください。

ただし、申請時において消費税及び地方消費税にかかる仕入れ控除税額が明らかでないものについてはこの限りではありません。

注3 補助金交付申請額は、千円以下切捨ての1,000円単位で記載すること。

注4 積算基礎は、必要に応じて内容が分かる書面を添付するなど詳細に記入すること。

(別紙3)

事業に係る取組目標

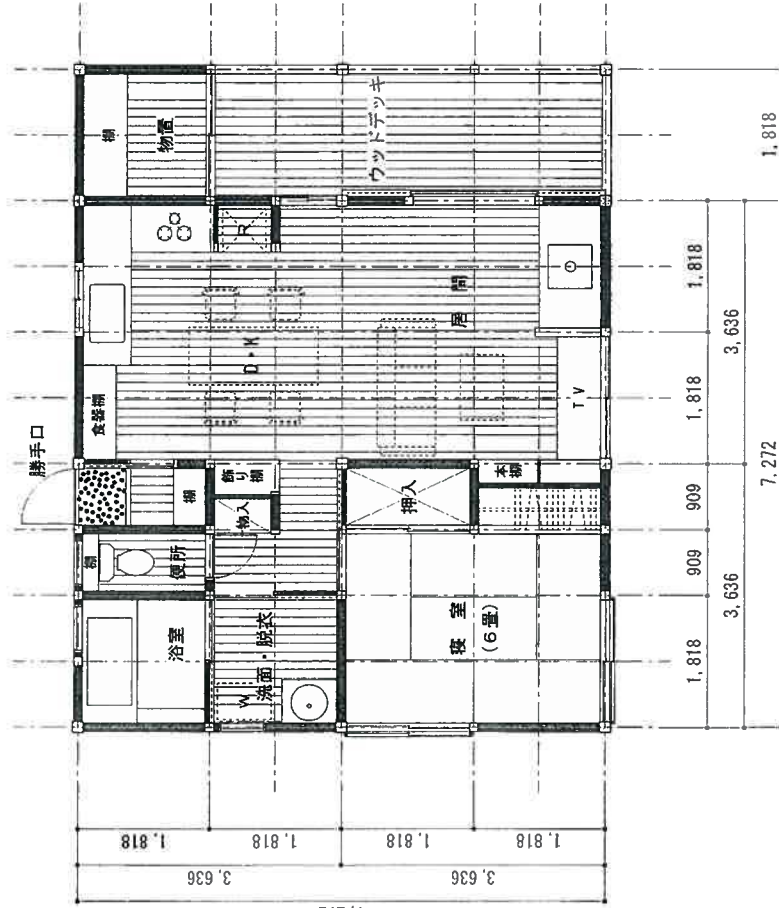
1 取組事項一覧

区分	個別目標	取組事項	取組年度				目標との関係
			H27	H28	H29	H30以降	
木材利用	◆ 県産材用材 利用量 4,800 m <sup>3</sup> → 5,3000 m <sup>3</sup>	・ 地域材製品の開発・実証	○				これら地域の取組により、県産材の普及を促進し、県産材の利便性を高める。
		・ 新製品の性能等の調査	○				
		・ 地域材製品の展示	○				
		・ 販路拡大に向けたホームページ掲載	○				
		・ 工務店販路開拓	○	○	○	○	



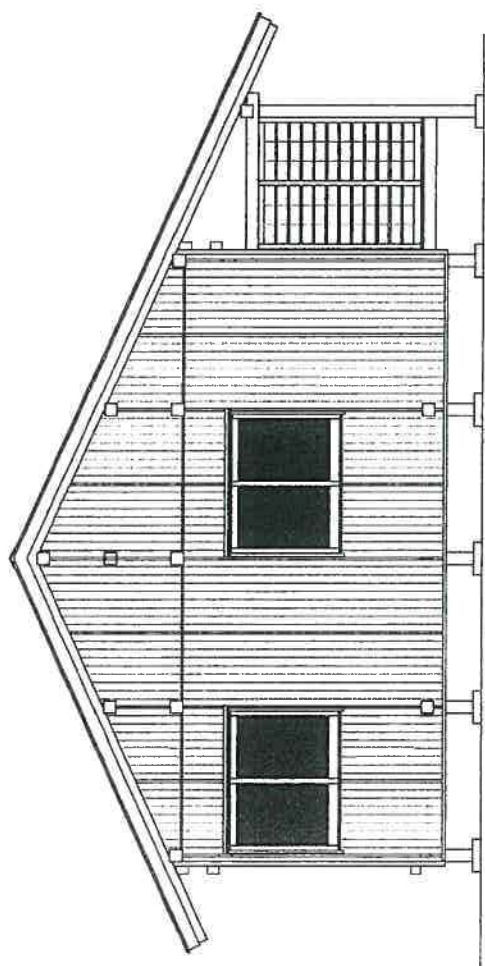
年間スケジュール

内 容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①2間×2間の構造フレーム許容応力度計算 (壁量、部材、展示個所の地盤・基礎の検討)				○	○				
②施工性を高めるための実証試験				○	○	○			
③構造安全性に配慮した「伝統構法による大工の腕を魅せる 南信州5寸角の家」ガイドブック作成						○	○	○	
④プロトタイプ設計および木製サッシ開発	○	○							
木拾い・建築部材発注			○						
建築部材調達・生産			○	○	○				
建て方				○	○	○			
⑤プロトタイプ見学発表会開催									○

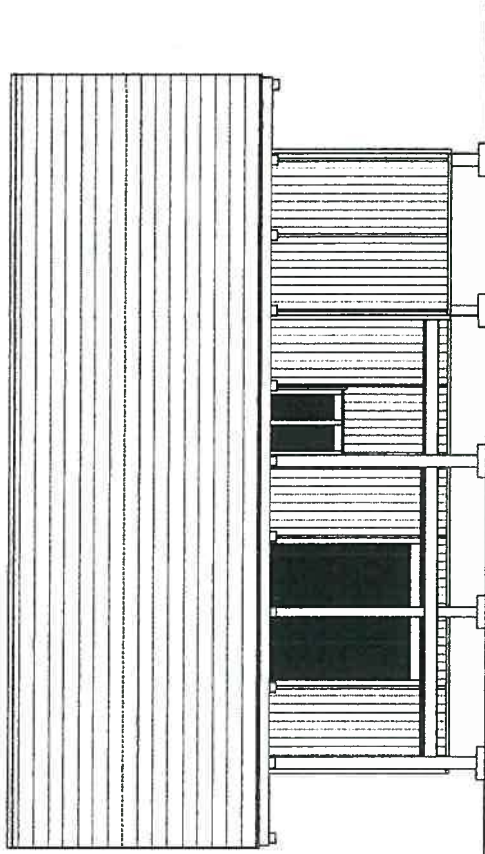


平面図

(仕様書)	
構造	石端建てによる伝縁造法
主要構造材	杉 150 mm × 150 mm × 4m 定尺材
細目	
基礎	礎石 400 角、ベタ基礎併用
外壁	杉板縦張パネル仕上げ
屋根	ガルバリウム鋼板張り
外開口部	開発木製サッシ
床	杉厚板パネル仕上げ
壁	特殊荒壁パネルの上、左官仕上げ
天井	杉野地板パネル現し
内部 (一般)	



南立面図



東立面図

株式会社 矢沢設計

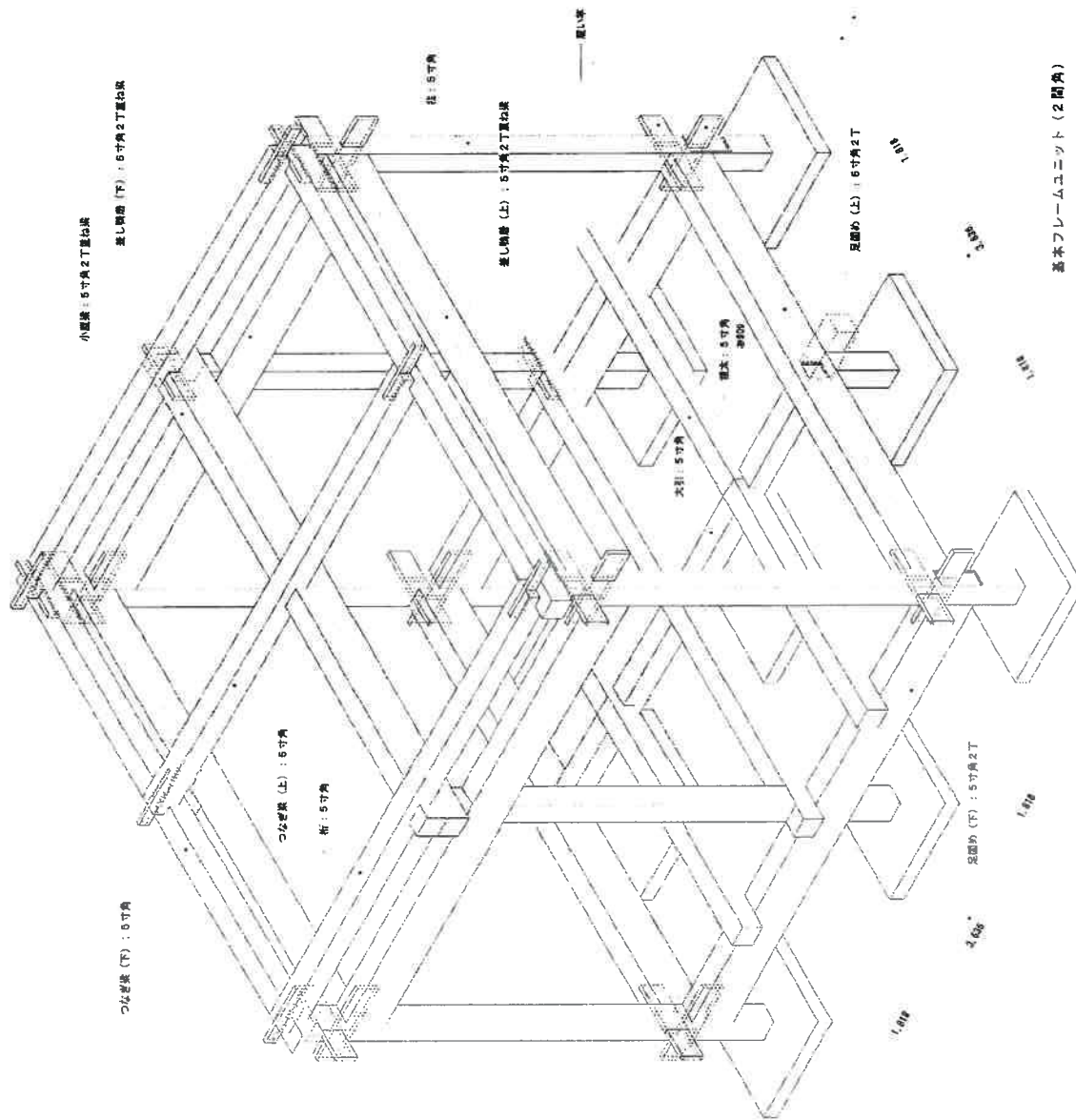
T 095-0153 長野県飯田市上飯田354 TEL (0265)-25-2387 FAX (0265)-25-2397  
 一級建築士事務所 長野県知事登録(下伊)第7191号 一級建築士登録 第204027号 大木島清徳

地主名	株式会社 矢沢設計	設計者	矢沢 清徳
設計年月日	2015.5.14	図面名称	立面図

工事名称 「伝統構法による大工の腕を魅せる南信州5寸角の家」普及事業

No. 2





株式会社 矢沢設計  
 株式会社 矢沢設計  
 株式会社 矢沢設計

株式会社 矢沢設計

〒085-0153 長野県飯田市上原354 TEL (0265)-25-2387 FAX (0265)-25-2287  
 一級建築士事務所 長野県知事登録(下伊)第77191号 一級建築士登録 第294027号 大木島清彦

株式会社 矢沢設計

失簿

設計年月日  
2015.5.14

工専名称 「伝統構法による大工の腕を継げる南信州5寸角の家」普及事業  
 2間角、基本フレームユニット

No. 3